

射水市教育委員会 10月定例会次第

日 時 令和6年10月25日(金)
午後2時30分から
場 所 庁舎会議室303

1 会議録の承認

2 議案

- (1) 射水市立新湊放生津小学校の位置の期日を定める規則の制定について
(学校教育課) 資料1
- (2) 射水市立小学校及び中学校通学区域設定規則の一部改正について
(学校教育課) 資料2
- (3) 射水市学校給食センター管理運営規則の一部改正について
(学校教育課) 資料3
- (4) 射水市教育委員会処務規程の一部改正について (学校教育課) 資料4

3 各課等の連絡事項及び報告事項

- (1) Co Innovation University(仮称)と連携した「教育分野」における
Well beingの研究について (学校教育課) 資料5
- (2) 令和6年度学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業について
(学校教育課) 資料6
- (3) 令和6年度全国学力・学習状況調査における射水市の結果について
(教育センター) 資料7
- (4) 教育委員会行事予定 資料8

4 その他

次回教育委員会の開催日時について

11月25日(月) 午後3時から 市庁舎401会議室

議案第 9 号

射水市立新湊放生津小学校の位置の期日を定める規則の制定
について

射水市立新湊放生津小学校の位置の期日を定める規則を次のように
定める。

令和 6 年 1 0 月 2 5 日 提 出

射水市教育委員会
教育長 金 谷 真

射水市教育委員会規則第 号

射水市立新湊放生津小学校の位置の期日を定める規則

射水市立学校設置条例の一部を改正する条例（令和 6 年射水市条例第
4 0 号）附則第 2 項の規定により、教育委員会が規則で定めることとされ
た日は、令和 9 年 3 月 3 1 日とする。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

議案第 9 号

射水市立新湊放生津小学校の位置の期日を定める規則の制定について

(説明)

令和 7 年 3 月 3 1 日をもって放生津小学校と新湊小学校を閉校し、同年 4 月 1 日から新湊放生津小学校を開校することに伴い、射水市立学校設置条例の一部を改正する条例（令和 6 年射水市条例第 4 0 号）を制定した。

同一部改正条例の附則第 2 項では、令和 7 年 4 月 1 日から教育委員会規則で定めるまでの間は、学校の位置を現放生津小学校：射水市中新湊 2 3 番 1 0 号とすることとしており、今回、その期日を令和 9 年 3 月 3 1 日までと定める規則を制定するもの。

- 1 施行期日
公布の日

議案第 10 号

射水市立小学校及び中学校通学区域設定規則の一部改正について

射水市立小学校及び中学校通学区域設定規則の一部を次のように改正する。

令和 6 年 10 月 25 日 提 出

射水市教育委員会

教育長 金 谷 真

射水市教育委員会規則第 号

射水市立小学校及び中学校通学区域設定規則の一部を改正する規則

射水市立小学校及び中学校通学区域設定規則（平成 17 年射水市教育委員会規則第 12 号）の一部を次のように改正する。

別表 1 を次のように改める。

別表 1（第 1 条関係）

学校名	通学区域
新湊放生津小学校	庄西町一丁目、庄西町二丁目、港町、庄川本町、本町一丁目～三丁目、放生津町、中央町、桜町、立町、八幡町一丁目～八幡町三丁目、中新湊、二の丸町、越の潟町、西新湊、三日曾根、善光寺、緑町、海王町、堀岡108番地・109番地、堀岡神明201番地・202番地・205番地・206番地・208番地・209番地
作道小学校	作道、殿村、今井、高木、布目、鏡宮、鏡宮弥生一丁目、鏡宮弥生二丁目、久々湊、奈呉の江、野村、津幡江、沖、神楽町
片口小学校	新片町一丁目～新片町五丁目、片口、片口久々江、片口高場、片口堀上、片口入江、片口堀岡、片口又新、片口新村、新堀、高場新町一丁目～高場新町四丁目
堀岡小学校	堀岡（108番地・109番地を除く）、堀岡神明新、堀岡神明（201番地・202番地・205番地・206番地・208番地・209番地を除く）、堀岡古明神、堀岡堀江、堀江千石、射水町一丁目、射水町二丁目、草岡町一丁目、草岡町二丁目、有磯一丁目2番地・4番地の2、海竜町
東明小学校	有磯一丁目（2番地・4番地の2を除く。）、有磯二丁目、浜開新町、東明西町、東明中町、東明東町、東明七軒、海老江、海老江浜開、海老江練合、海老江七軒、本江、本江針山、本江針山新、本江針山開、本江後新、本江中新、本江利波、本江三箇、本江東、本江西、本江南、本江北、本江中、足洗新町一丁目、かもめ台、七美、七美中野、七美一丁目、七美二丁目

塚原小学校	宮袋、松木、川口、朴木、板東、寺塚原、沖塚原
小杉小学校	水上、水源町、上新町、諏訪町、新富町、白銀町、錦町、一番町、初音町、本中町、常盤町、田町、高寺、愛宕、新三ヶ、西町、住吉町、中町、茶屋町、荒町、新町、高穂町、中央通り一丁目～中央通り三丁目、昭和通り、木舟町、乗舟町、西楠町、神川町、鍛冶屋橋、未永町、北手崎、手崎、江上、針原、若宮町、さくら町、平成町、いぶき野町、大江、鷲塚、小杉白石、西高木、稲積
金山小学校	青井谷、宿屋、野手、浄土寺、上野
歌の森小学校	夢美野、若葉町、宝町、元町、南通り、栄町、新栄町、黒河一区～黒河五区、新星町、東太閤山一丁目～東太閤山四丁目、土代、椎土、山本新、小杉北野、太閤山東
太閤山小学校	伊勢領1～伊勢領4区、太閤町、太閤山一丁目、千成ヶ丘第1、千成ヶ丘第3・4、雇用促進住宅、太閤山三丁目～太閤山九丁目、駅南通り一丁目、千成ヶ丘第6、千成ヶ丘第7、五歩一、大白、二ノ井、赤田、下条新、一条東、一条西
中太閤山小学校	中太閤山一丁目～中太閤山十八丁目、南太閤山一丁目～南太閤山十五丁目、平野
大門小学校	あおば台一丁目、あおば台二丁目、市井、犬内、開口、下若、生源寺、生源寺新、大門、大門新、竹鼻、棚田、中村、枇杷首、藤巻、二口1番地～1552番地・1601番地・1608番地～1620番地・1622番地～1630番地・1634番地・1636番地～3292番地、大門本江、本田、水戸田、安吉、若林、流通センター水戸田一丁目～流通センター水戸田四丁目、下条、島、上条、土合、西広上、広上、堀内、荒町、梅木、串田、串田新、串田新出、小泉、円池、円池又新、布目沢、黒河新、黒河又新、大門島
下村小学校	加茂東部、加茂中部、下村三箇、山屋、白石、摺出寺、八講、倉垣小杉
大島小学校	今開発、本開発、新開発、赤井、鳥取、南高木、北高木、小林、八塚、小島、中野、若杉、大島北野、北野、二口1553番地・1587番地～1600番地・1602番地～1607番地・1621番地・1631番地～1633番地・1635番地

附 則

この規則は、令和7年4月1日から施行する。

議案第 10 号

射水市立小学校及び中学校通学区域設定規則の一部改正について

(説明)

令和 7 年 3 月 31 日をもって放生津小学校と新湊小学校を閉校し、同年 4 月 1 日から新湊放生津小学校を開校することに伴い、所要の改正を行うもの。

1 改正内容

放生津小学校及び新湊小学校の通学区域を併せた区域を新湊放生津小学校の通学区域とするもの。

2 施行期日

令和 7 年 4 月 1 日

射水市立小学校及び中学校通学区域設定規則の新旧対照表

現行		改正案	
別表1（第1条関係）		別表1（第1条関係）	
学校名	通学区域	学校名	通学区域
放生津小学校	放生津町8番～18番、桜町18番・19番、立町、八幡町一丁目～八幡町三丁目、中新湊、二の丸町、越の潟町、中央町13番・14番・20番(1号～14号)・21番～25番、緑町6番、海王町、堀岡108番地・109番地、堀岡神明神201番地・202番地・205番地・206番地・208番地・209番地	新湊放生津小学校	庄西町一丁目、庄西町二丁目、港町、庄川本町、本町一丁目～三丁目、放生津町、中央町、桜町、立町、八幡町一丁目～八幡町三丁目、中新湊、二の丸町、越の潟町、西新湊、三日曾根、善光寺、緑町、海王町、堀岡108番地・109番地、堀岡神明神201番地・202番地・205番地・206番地・208番地・209番地
新湊小学校	港町、庄川本町、本町一丁目～本町三丁目、放生津町1番～7番・19番～22番、桜町1番～17番、西新湊、三日曾根、善光寺、緑町1番～5番・7番～18番、中央町1番～12番・15番～19番・20番(15号～26号)、庄西町一丁目、庄西町二丁目	作道小学校～大島小学校	(略)
作道小学校～大島小学校	(略)		
		<p>附 則</p> <p>この規則は、令和7年4月1日から施行する。</p>	

議案第11号

射水市学校給食センター管理運営規則の一部改正について

射水市学校給食センター管理運営規則の一部を次のように改正する。

令和6年10月25日 提出

射水市教育委員会

教育長 金谷 真

射水市教育委員会規則第 号

射水市学校給食センター管理運営規則の一部を改正する規則

射水市学校給食センター管理運営規則（平成17年教育委員会規則第17号）の一部を次のように改正する。

別表中

「

放生津小学校
新湊小学校

を

」

「

新湊放生津小学校

に改める。

」

附 則

この規則は、令和7年4月1日から施行する。

議案第 1 1 号

射水市学校給食センター管理運営規則の一部改正について

(説 明)

令和 7 年 3 月 3 1 日をもって放生津小学校と新湊小学校を閉校し、同年 4 月 1 日から新湊放生津小学校を開校することに伴い、学校給食センターにおいて給食を供する対象校が変わるため、所要の改正を行うもの。

1 改正内容

学校給食センターにおいて給食を供する対象学校（別表）を改めるもの。

2 施行期日

令和 7 年 4 月 1 日

射水市学校給食センター管理運営規則（平成17年射水市教育委員会規則第17号）新旧対照表

現行		改正後（案）	
別表（第2条関係）		別表(第2条関係)	
区分	名称	区分	名称
小学校	放生津小学校	小学校	新湊放生津小学校
	新湊小学校		
	作道小学校		作道小学校
	片口小学校		片口小学校
	堀岡小学校		堀岡小学校
	東明小学校		東明小学校
	塚原小学校		塚原小学校
中学校	新湊中学校	中学校	新湊中学校
	新湊南部中学校		新湊南部中学校
	射北中学校		射北中学校
幼稚園	七美幼稚園	幼稚園	七美幼稚園
		<p>附 則</p> <p>この規則は、令和7年4月1日から施行する。</p>	

議案第12号

射水市教育委員会処務規程の一部改正について

射水市教育委員会処務規程の一部を次のように改正する。

令和6年10月25日 提出

射水市教育委員会
教育長 金谷 真

射水市教育委員会訓令第 号

射水市教育委員会
教育長
事務局
出先機関
教育機関

射水市教育委員会処務規程の一部を改正する訓令

射水市教育委員会処務規程（平成17年射水市教育委員会訓令第1号）の一部を次のように改正する。

別表射水市視聴覚ライブラリーの項を削り、

「

放生津小学校	射小放
新湊小学校	射小新

」

を

「

新湊放生津小学校	射小新放
----------	------

」

に改める。

附 則

この訓令は、公表の日から施行する。ただし、別表放生津小学校及び新湊小学校の項の改正規定は令和7年4月1日から施行する。

議案第 12 号

射水市教育委員会処務規程の一部改正について

(説明)

令和 7 年 3 月 31 日をもって放生津小学校と新湊小学校を閉校し、同年 4 月 1 日から新湊放生津小学校を開校すること等に伴い、所要の改正を行うもの。

1 改正内容

- (1) 新湊放生津小学校の公文書に冠する記号を「射小新放」とするもの。
- (2) その他例規整備

2 施行期日

(1) 公表の日

ただし、放生津小学校及び新湊小学校の項の改正規定については、
令和 7 年 4 月 1 日

射水市教育委員会処務規程(平成17年射水市教育委員会訓令第1号)新旧対照表

現行		改正後(案)	
別表(第7条関係)		別表(第7条関係)	
名称	記号	名称	記号
(略)	(略)	(略)	(略)
射水市視聴覚ライブラリー	射教視		
博物館	射教博	博物館	射教博
七美幼稚園	射幼七	七美幼稚園	射幼七
大門わかば幼稚園	射幼大門	大門わかば幼稚園	射幼大門
放生津小学校	射小放	新湊放生津小学校	射小新放
新湊小学校	射小新		
作道小学校	射小作	作道小学校	射小作
(略)	(略)	(略)	(略)
		<p style="text-align: center;">附 則</p> <p>この訓令は、公表の日から施行する。ただし、別表放生津小学校及び新湊小学校の項の改正規定は令和7年4月1日から施行する。</p>	

資料 2 コ イ ノ ベーション ユニバーシティ Co-Innovation University (仮称) との連携による「教育分野」における Well-being 研究が行われます

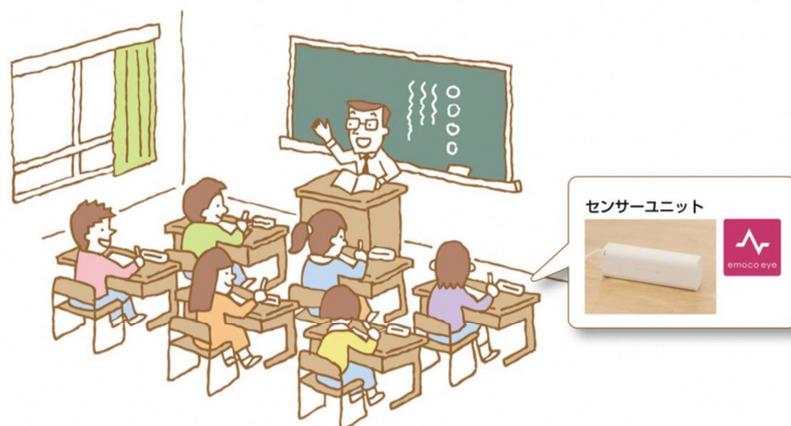
本日から、一般社団法人 CoIU 設立基金（岐阜県飛騨市、代表理事 井上博成）と三菱電機株式会社のセンサーを活用した「教育分野」における Well-being の研究を本市にて実施します。

- 1 内容** 三菱電機株式会社のドップラーセンサー「エモコアイ®」(※1)を用い、分析やアンケート調査を通じて、教師の授業の進め方や説明に対するクラス全体の児童の興味関心との関連について研究を進めるものです。
- 本研究結果を通じて、市内小学校教師の授業形式や進め方の工夫検討に生かすためのヒントを提供し、教育分野における Well-being 向上を目指します。

2 期間 11月5日(火)～12月23日(月)

3 対象 市内小学校(1校)6年生
(※国語、算数、理科、社会で実施します。)

- 4 経緯** 一般社団法人 CoIU 設立基金は、2026年4月のCo-Innovation University (仮称) の開学に向け、現在、文部科学省に大学の設置認可申請中です。
- 同大学は、岐阜県飛騨市にメインキャンパスを置き、全国様々な地域と連携し、地域課題解決および事業創造の推進を目指す構想を掲げており、そのCo-Innovation University (仮称) の地域拠点の一つとなる本市では、「Well-being・医療/福祉等」をテーマに、研究・実践・教育を行っていくこととなっています。その具体的な取組として、CoIU設立基金が本市を選定して行うものです。



※1 電波を用いて非接触で高精度に人の脈波信号を計測・解析するセンサー。今回使用するセンサーユニットはプロトタイプであり製品ではない。「エモコアイ」は三菱電機株式会社の登録商標。
 <エモコアイに関するお問い合わせ先>
gijyutu_kouhou_emocoeye@mb.MitsubishiElectric.co.jp

令和6年度学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業について —文化施設等活用事業—

令和7年度市制20周年を迎えるのを記念し、令和6年度から3年計画で文化庁の学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業—文化施設等活用事業—を活用して実施します。令和6年度は次のとおり小・中学校6校を対象とし、次年度以降全ての学校が鑑賞できるよう実施するものです。

1 期日 令和6年11月13日(水)

2 日程

【午前の部】

10:55	開場・児童生徒到着 演目 出演者練習
11:10	開演
演目	ムーヴメント・カプリース
演目	アタック・トゥ・バレエ
演目	コートダンス・パレード
演目	ソリテイル
12:20	終演

【午後の部】

13:40	開場・児童生徒到着 演目 出演者練習
13:55	開演
演目	ムーヴメント・カプリース
演目	アタック・トゥ・バレエ
演目	コートダンス・パレード
演目	ソリテイル
15:05	終演

3 会場 高周波文化ホール 大ホール

4 主催 射水市教育委員会

5 出演 小林紀子バレエ・シアター

演目 は、各校から代表教職員、児童生徒数名に出演していただきます。

6 鑑賞者 児童 2,086人 引率者 115人 計 2,201人

【午前の部】

学校名	人数
金山小学校	57
歌の森小学校	394
小杉中学校	656
計	1,107

【午後の部】

学校名	人数
小杉小学校	529
中太閤山小学校	263
小杉南中学校	302
計	1,094

7 移動方法 貸切バス



(事務担当)射水市学校教育課

0766-51-6635



令和6年度学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業(文化施設等活用事業)

射水市&小林紀子バレエ・シアター



N. Kobayashi
Ballet Theatre

★解説付き

ようこそ!
バレエの
世界へ!

<上演演目>

- 「ムーヴメント・カプリース」
- 「アタック to バレエ」
- 「コートダンス・パレード」
- 「ソリテイル」



SOLITAIRE photograph by Kenichi Tomohiro

2024.
11.13 (水) 会場:高周波文化ホール大ホール

- <参加校>
- ・金山小学校
 - ・歌の森小学校
 - ・小杉中学校
 - ・小杉小学校
 - ・中太閤山小学校
 - ・小杉南中学校

「小林紀子バレエ・シアター」のご紹介

こばやしりのりこ
小林紀子バレエ・シアターはクラシカル・バレエ・カンパニーとして1973年ねんに小林 功こうによって東京とうきょうめじろ せつりつ げんざい けいじゆつかんとく つと こばやしりのりこ ねん けいじゆつかんとく の目白めじろに設立りつりつされました。現在カンパニーの芸術監督げいじゆつかんとくを務める小林紀子は、1983年より芸術監督げいじゆつかんとくに就任きうじん。イギリスの優れたバレエ作品の紹介、普及を数多く行っており、一昨年創立50周年を迎えました。現在までに125回もの自主公演を開催しています。平成20年度文化庁芸術祭大賞受賞、ダンス・ヨーロッパの年間ベストステージ賞にノミネートされるなど高く評価されています。

とうきょう にほんぜんこく こうえん てんかい りょうしつ じつえんけいじゆつ ふ きかい そうぞう ゆた ぶんかてき 東京のほか、日本全国でも公演を展開。良質な実演芸術に触れる機会を創造し、豊かな文化的

せいかつかんきょう はってん かつりよく しゃかい じつげん こうげん かつどう ちいきしゃかい ぶんかけいじゆつ と ま 生活環境の発展と活力ある社会の実現に貢献する活動とともに、地域社会や文化芸術を取り巻く

ひとびと りょうこう かんけい はぐく かつどう おこな 人々との良好な関係を育む活動を行っています。

YouTube
バレエ団紹介動画



▶小林紀子バレエ・シアター「くるみ割り人形」公演のご案内

クリスマスゆうがの優雅な2時間じかん!
バレエ わ にんぎょう
くるみ割り人形

18歳以下対象
子供無料席
および同伴者半額席
<数限定・要申込・抽選>

しょうじょ 少女クララのきらめく旅の物語ー『くるみ割り人形』
ふゆげしき 冬景色の先に訪れる暖かな感動が劇場を包み込む。

おーけすとらが演奏をはじめた瞬間から
しょうじょ 少女クララの夢の物語を思う存分楽しめます。

2024.
12.27 Fri./28 Sat.
18:00/15:00

ウェブにて
公演情報
近日公開



会場:東京建物 Brillia HALL (豊島区立芸術文化劇場) (東京・池袋)

◎公演に関するお問合せ:小林紀子バレエ・シアター 03-3987-3648(木曜定休)

小林紀子バレエ・シアターウェブサイトにて最新情報をご確認ください。

▶ <https://www.nkbt-tokyo.com>



みなさんは、バレエという言葉からどんなことを想像しますか？

バレエは、ヨーロッパで生まれた舞踊です。ダンサーの動き、音楽、照明、舞台の装置、衣装が一体となって表現する総合劇場芸術です。せりふや歌詞の代わりに、バレエダンサーは身体を使って役柄や音楽を表現します。ですから、国境を越えて、どの国の人も楽しむことができます。

バレエを鑑賞したことがある人も、初めての人でも、今日はその世界を覗いてみましょう。プロフェッショナルダンサーとスタッフがお手伝いします。

小林紀子 (小林紀子バレエ・シアター芸術監督)

ムーヴメント・カプリース



振付●小林紀子 作曲●L.M. ゴットシャルク
衣装デザイン●小林紀子

「ムーヴメント カプリース」とは、「気まぐれな動き」という意味で、この作品に物語はありません。シンプルな衣装を身につけたプロフェッショナルダンサーのダイナミックで音楽的な踊りをお見せします。

アタック to バレエ

プロフェッショナルダンサーの1日は、「クラス」と呼ばれるレッスンから始まります。はじめは、「バーレッスン」と言って添え木を使って練習をします。次に、「センターレッスン」として何にも頼らないで自由に踊るための練習をします。さあ皆さんと一緒に、バレエを体験してみましょう！

コートダンス・パレード

振付●小林紀子 作曲●アドルフ・アダン
衣装デザイン●ピーター・ファーマー

「コートダンス」とは、「貴族の踊り」という意味です。ぜいたくな貴族の衣装を身につけたバレエダンサーが皆さんのすぐそばまで近づいてパレードします。



Stage photographs by Kenichi Tomohiro

「ソリテイル」

振付●ケネス・マクミラン 作曲●マルコム・アーノルド 衣装デザイン●キム・ベアスフォード



今回皆さんに、世界中で愛され続けているケネス・マクミランの振付作品「ソリテイル」をご紹介できることを大変喜ばしく思います。もちろん「白鳥の湖」のような古典の作品を紹介することも大切ですが、現代の振付家によるバレエを皆さんにお見せすることも、とても重要だと考えます。ケネス・マクミランは若者の情操教育に大変熱心でしたので、今日皆さんが「ソリテイル」をご覧になることをとても喜んでいただいていることでしょう。この作品がきっかけとなり「もっと別の作品も見たい」と感じていただければ幸いです。

ジュリー・リンコン (プロデューサー・イギリス)

スタッフ

芸術監督:小林紀子
舞台監督:加藤禎子 照明:五十嵐正夫 音響:佐藤利彦 道具:東宝舞台株式会社 衣装:横山美樹
企画制作:有限会社小林バレエ事務所 出演:小林紀子バレエ・シアター ピアノ演奏:青木萌絵



★舞台を作り上げる、様々な機材があり、たくさんのスタッフが働いています。スタッフの姿もぜひ探してみてください。

「令和 6 年度全国学力・学習状況調査」

における射水市の結果について

令和6年10月25日（金）

射水市教育委員会

令和6年度 全国学力・学習状況調査について

I 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

II 実施概況（射水市小中学校）

- 実施期日 令和6年4月18日（木）
- 調査内容
 - ・ 教科に関する調査
 - （小学校）国語、算数
 - （中学校）国語、数学
 - ・ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査
児童生徒、学校

○ 実施学校数、実施児童生徒数

射水市 小中学校	小学校6年		中学校3年	
	実施学校数	実施児童数	実施学校数	実施生徒数
	15校	708名	6校	788名

※ 用語説明

平均正答率	平均正答数を百分率で表示。 <ul style="list-style-type: none">○ 国語、算数、数学ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。○ 学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、問題ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率
-------	--

Ⅲ 令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

射水市教育委員会では「射水市学力向上委員会」を設置し、教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する質問調査の結果を分析・考察して、学力向上対策に反映させている。特に、日々の授業で児童生徒が「分かる・できる」を実感できるよう、射水トライアル3点セット（射水スタンダード～授業のABC～、授業研究協議ステージアップ、授業力向上のちょいテク）を活用した教員の授業力向上に努めている。

調査結果から、小・中学校ともに、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した児童生徒の割合が高く、小学校では記述式問題の平均正答率が全国・県より高い値を示している。また、「自分にはよいところがあると思う」（自尊感情）と回答した割合は、小・中学校ともに昨年度より減りはしたものの、今年度も全国・県より高くなっている。

確かな学力の定着に向け、射水トライアル3点セットを活用した継続的な授業改善を図るとともに、補充学習の充実や学び高め合う集団づくりの推進、ICT機器を活用する研修を一層支援していきたい。

1 教科に関する調査の結果（教科区分別平均正答率）

- 小学校 国語では、全国平均、県平均をともに上回った。
算数では、全国平均、県平均をともに上回った。
- 中学校 国語では、全国平均を上回り、県平均を下回った。
数学では、全国平均を上回り、県平均と同等だった。

（単位：％）

区 分	小学校6年		中学校3年	
	国語	算数	国語	数学
射水市	70%	65%	59%	56%
県との差	1	1	-1	0
国との差	2	2	1	3
富山県	69%	64%	60%	56%
全 国	68%	63%	58%	53%

※ 文部科学省は平成28年度より、小数点以下第1位を公表することが、数値データによる単純な比較が行われ、序列化や過度な競争を助長する一つの要因として考えられることから、平均正答率を整数値で公表している。

【参考】令和5年度の教科に関する調査の結果

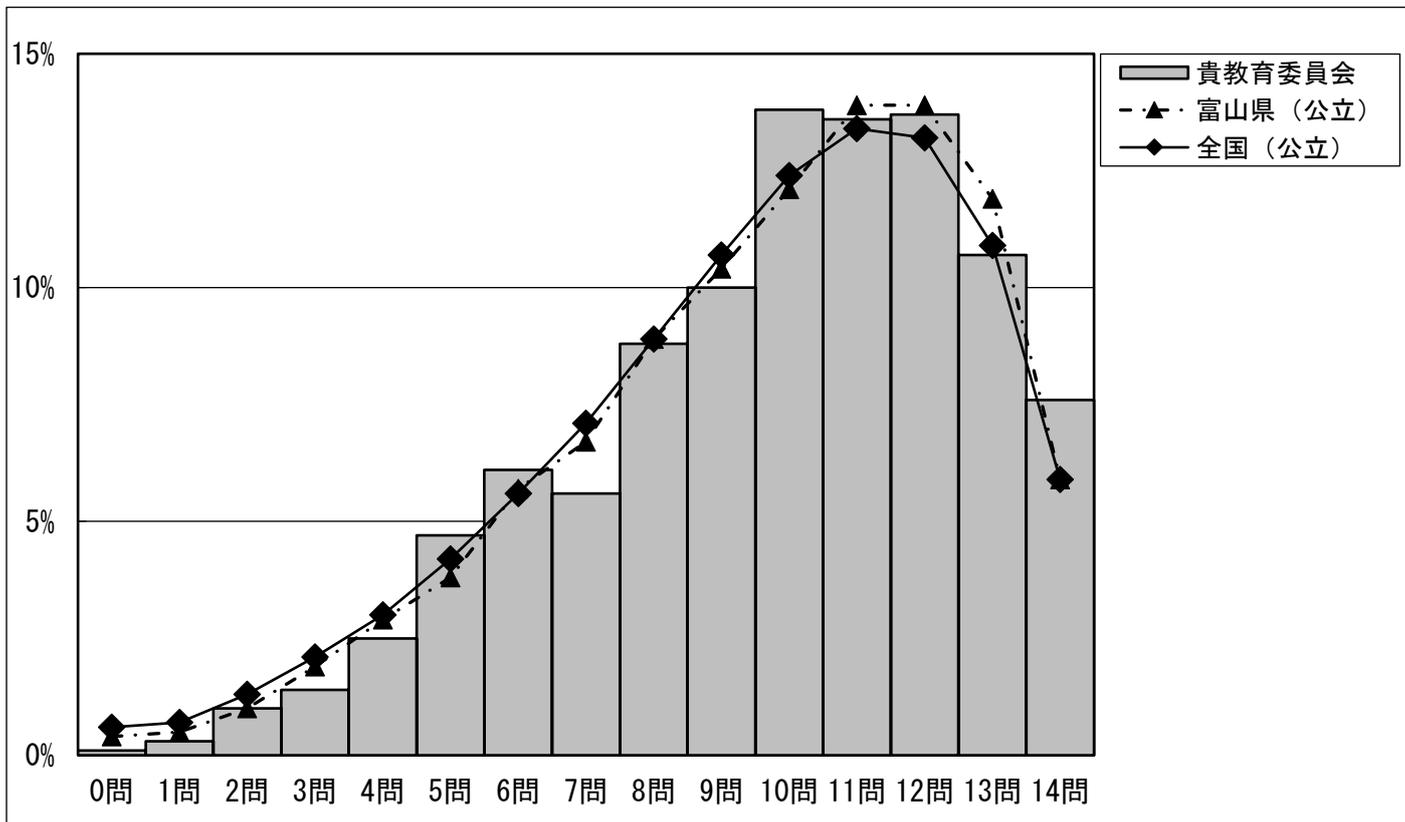
（単位：％）

区 分	小学校6年		中学校3年		
	国語	算数	国語	数学	英語
射水市	71%	65%	72%	53%	47%
県との差	2	0	1	-1	1
国との差	4	2	2	2	1
富山県	69%	65%	71%	54%	46%
全 国	67%	63%	70%	51%	46%

小学校国語

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
射水市教育委員会	708	9.7 / 14	70	10.0	2.9
富山県（公立）	7,297	9.6 / 14	69	10.0	3.0
全国（公立）	947,364	9.5 / 14	67.7	10.0	3.1

正答数分布 グラフ【横軸：正答数，縦軸：割合】



集計結果 表【平均正答率：◎全国、県以上】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	富山県（公立）	全国（公立）
全体		14	◎ 70.0	69.0	67.7
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	◎ 66.7	65.4	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	◎ 88.3	87.7	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	◎ 75.6	75.1	74.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	62.1	62.5	59.8
		B 書くこと	◎ 72.1	70.7	68.4
		C 読むこと	◎ 71.1	70.0	70.7
評価の観点	知識・技能	6	◎ 71.8	70.7	69.8
	思考・判断・表現	8	◎ 68.0	67.3	66.0
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	10	◎ 72.0	71.2	69.9
	短答式	2	◎ 61.3	60.7	59.7
	記述式	2	◎ 65.9	64.6	64.6

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<p>結果の概要</p>	<p>○全体の平均正答率は、全国平均を 2.3 ポイント上回っており、県平均は 1 ポイント上回っている。「学習指導要領の内容」「評価の観点」「問題形式」の全ての分類において、全国平均を上回っている。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の無解答率は、全国平均、県平均に対して共に低い。しかし、「読むこと」の無解答率は、全国平均、県平均に対して高い問題がみられる。</p> <p>●「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、県平均を 0.4 ポイント下回っている。</p>
<p>各領域・評価の観点の分析</p>	<p>言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <p>○漢字の書き取り(設問 2 三アイ)では、「なげる」を書く問題の正答率が 78.5%と高いことから、タブレット端末を活用したドリル学習等、家庭での反復練習を通して基礎的・基本的な知識及び技能が身に付いていると考えられる。しかし、「きょうぎ」を書く問題の正答率は低く、全国平均を 0.3 ポイント、県平均を 1.7 ポイント下回っている。今後は、繰り返し練習することにとどまらず、「同音異義語に注意しながら、文脈の中で意味と結び付ける活動」「漢字辞典を使って漢字の読みや意味を自分で調べる活動」「同音異義語カード作りやクイズ作り等多くの漢字に興味をもてる活動」を工夫し、文や文章の中で適切に使えるように指導していくことが大切である。</p> <p>○「文の中の主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる」問題(設問 3 一)の正答率は 66.7%で全国平均を 4.4 ポイント、県平均を 2.9 ポイント上回っている。先述した漢字の書き取り同様、ドリル学習等を通して基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていることが伺える。</p> <p>我が国の言語文化に関する事項</p> <p>○「読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる」問題(設問 3 四)の正答率は 75.6%で、全国平均、県平均ともに上回っているものの、無解答率は、県平均よりもわずかではあるが高い結果となっている。児童質問紙 23「あなたの家には、およそどのくらいの本がありますか」からは、児童が日常的に本に触れ、読書に親しんでいることが伺えるが、ただ目の前の本を読んでいるだけで、「本の中から自分を支える言葉を見付けたり、今までにない考えを発見したりしながら」読んだり、読書記録を付けながら計画的に読んだりすることができていない児童も一定数いると思われる。児童が読書の意義をさらに感じるようにするために、年間を通して読書記録を付け、どのような本を読んできたのか、読書がどのように自分の考えを広げるのに役立ったのかに児童自身が気付くことができるようにする必要がある。友達と読書記録を交流し合うことも、児童が読書の価値を感じたり、本の読み方を学んだりする上で効果的であると考えられる。</p>

話すこと・聞くこと

●「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」問題(設問1二(2))の正答率は55.4%と低く、全国平均を1.5ポイント上回っているものの、県平均を2ポイント下回っている。中でも、解答類型1(聞き手の状況には気付いているが、聞き手の状況に応じて資料(実物)を示して話したことが捉えられていない)と誤答している児童の割合が全国平均より0.4ポイント、県平均より2.1ポイント高くなっており、考えを伝える手段として資料を活用したことに気付いていない児童が多いことが伺える。また、児童質問紙28(ICTを活用した学習状況の質問)にある「分からないことがあった時に、すぐに調べることができる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」で「とてもそう思う、そう思う」と回答した児童は、それぞれ90.6%、88.9%と高かったが、「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」で「とてもそう思う、そう思う」と回答した児童は74.4%にとどまり、全国平均を4.8ポイント下回る結果となっている。このことから、児童が資料を提示しながら考えを話すことに慣れていないこと、ICT機器が資料提示に有用であると実感できていないことに課題があると考えられる。資料を提示しながら話すスピーチやプレゼンテーション等の場を日常的に設け、資料を活用しながら話すことよさに気付けるようにする必要がある。また、実物や画像だけではなく、必要な文言や数値、図解したもの等、様々な種類の資料を教師が例示することや、互いの資料提示の仕方やその内容についてグループで助言し合う場を設けることで、児童がより効果的に資料を活用して話すことができるようになると考えられる。さらに、聞き手の状況に応じて表現する力を身に付けるに当たり、児童同士の双方向のやり取りの機会を増やしていくことも効果的であると考ええる。

書くこと

○「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題(設問2二)の正答率は61.7%で、全国平均を5.1ポイント、県平均を2.1ポイント上回っている。このことは、書く活動において、自由に書くだけではなく、付け加えられた条件に合わせて文章を書くことや、教師や友達のモデルとなる文を提示し、そのよさを取り入れて文章を書くこと等を指導してきたことが、一定の成果として現れたものと考えられる。今後も、普段の作文や日記、授業におけるまとめや振り返り等、様々な場面で児童の書く時間や機会を確保し、継続的に取り組むことが大切である。さらに、教師が条件を与えるだけではなく、児童自身が目的や意図に応じて、自ら条件を設定したり意識したりして書く活動に取り組む場面も設定することで、書く力のさらなる高まりが期待できる。

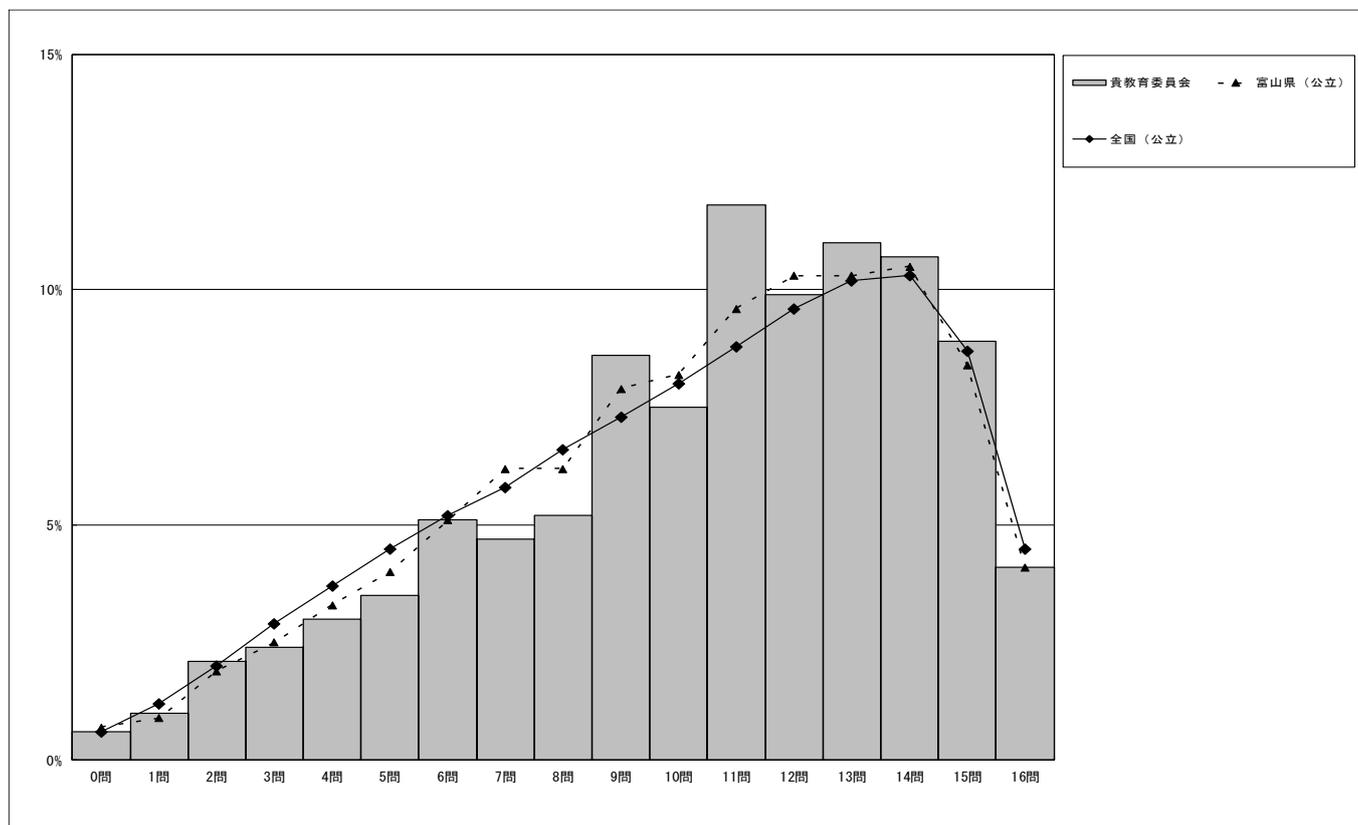
読むこと

●どの設問も県平均を上回っている。一方で、「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる」問題(設問3三)の正答率は70.1%と低く、全国平均を2.5ポイント下回っている。無解答率も14.1%と高く、児童が物語を読んで心に残ったところやその理由を説明する活動に苦手意識を抱いていることが分かる。解答類型4(物語の中から言葉や文を取り上げることはできているが、心に残った理由が書かれていない解答)、6(物語の中から言葉や文を取り上げることはできているが、心に残ったところが書かれていない解答)と誤答している児童が多いことから、物語の中の言葉や文を取り上げることは、ほとんどの児童ができていたといえる。このことは、市小教研において重点的に取り組んできた、教材と対話的に関わる(叙述を丁寧に読む)指導が成果として現れたと考えられる。しかしながら、心に残ったところや心に残った理由を書くことができない児童が多いことから、「叙述を基に人物像や物語の全体像を具体的に想像すること」や「心に残る漠然とした印象を言語化すること」に課題があるといえる。登場人物の行動や会話、様子等を表している複数の叙述を結び付け、人物像や物語の全体像を想像していけるような問いを投げかけることで、児童が自分の読みを深めていくことができるようにする必要がある。また、児童が自分の考えを明らかにしていくためには、観点を明確にした上で、互いの読みを交流させることも効果的である。さらに、語彙の量と質を豊かにすることも、漠然とした思いや考えを言葉で表現できるようにするためには必要であると考えられる。

小学校算数

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
射水市教育委員会	709	10.4 / 16	65	11.0	3.8
富山県（公立）	7,297	10.2 / 16	64	11.0	3.8
全国（公立）	947,579	10.1 / 16	63.4	11.0	3.9

正答数分布 グラフ【横軸：正答数，縦軸：割合】



集計結果 表【平均正答率：◎全国、県以上】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	富山県（公立）	全国（公立）
全体		16	◎ 65.0	64.0	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	◎ 67.7	66.4	66.0
	B 図形	4	◎ 66.7	66.9	66.3
	C 測定	0			
	C 変化と関係	3	◎ 53.4	51.6	51.7
	D データの活用	4	◎ 65.0	63.3	61.8
評価の観点	知識・技能	9	◎ 73.8	73.6	72.8
	思考・判断・表現	7	◎ 53.6	51.6	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	◎ 76.7	76.6	75.3
	短答式	7	◎ 63.3	62.4	62.0
	記述式	4	◎ 53.2	50.8	51.0

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

小学校算数

<p>結果の概要</p>	<p>○全体の平均正答率は、全国平均を 1.6 ポイント、県平均を 1 ポイント上回っている。</p> <p>○無解答率は、ほとんどの問題において全国平均、県平均を下回っている。特に「記述式」の無解答率は低く、平均正答率は全国平均、県平均を上回っている。</p> <p>●「図形」の平均正答率は、全国平均を上回っているものの、県平均を 0.2 ポイント下回っている。</p>
<p>各領域・評価の観点の分析</p>	<p>数と計算</p> <p>●「問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる」問題(設問 1(1))の正答率は 55.9%であり、全国平均を 2.2 ポイント下回っている。解答類型 2 (72-28 を選択している)の誤答が全国や県に比べて多かった。これは、問題文中の「少ない」という言葉から形式的に減法を用いた式であると判断した児童が多いためと考えられる。</p> <p>・指導に当たっては、問題文を読み、「多い」という表現から加法、「少ない」という表現から減法、と形式的な立式ではなく、問題場面を図に表して、その図と問題文のそれぞれの数量関係を比較し、捉えられるようにすることが大切である。その後、図を基にして、式に表すことができるようにすることが大切である。国立教育政策研究所「R 6 年度全国学力・学習状況調査【小学校算数】報告書」に記載されている授業アイデア例では、数量の関係をつかみにくい問題の解決において、複数の図から正しいと考えた図を選び、選んだ理由を伝え合う活動や、筋道を立てて数量の関係を捉えるために、問題文を短く区切り、テープ図を少しずつかき加えていく活動が提案されている。図という数学的な表現のよさに気づき、自ら見通しをもって問題に取り組めるよう、図と式等による表現を関連付けた学習を繰り返し行うことが理解の深まりにつながる。</p> <p>図形</p> <p>●「球の直径の長さとお立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる」問題(設問 3(3))の正答率は 34.4%であり、全国平均を 2.1 ポイント、県平均を 1.4 ポイント下回っている。解答類型 7 (3.14 を用いた式を解答している)の誤答が多く見られ、この中には「22×3.14」という解答が考えられる。このように解答した児童は、球の直径の長さとお円周率から体積を求めることができると誤って捉えており、深い理解を伴う知識の習得が十分にできていないと考えられる。また、「球」という言葉のイメージから円を思い浮かべ、立方体の体積を求める問題であることを把握できなかった児童がいることも考えられる。</p> <p>・指導に当たっては、身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積を求めるために必要な情報を判断できるようにすることが大切である。そのために、本設問のようにボールがぴったり入る箱を用意して、真上や真横から観察するなどの活動を取り入れ、具体物を用いて図形を構成する要素や図</p>

形どうしの関係に着目させるなどの工夫が必要であると考えられる。また、教科書のデジタルコンテンツにあるシミュレーションや動画等を効果的に活用し、図形についての感覚を豊かにすることも大切であるとする。

変化と関係

- 「道のりが等しい場合の速さの比較について、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題(設問4(3))の正答率が30.7%と低かった。しかし、「どちらが速いのか」判断できている解答類型の反応率の合計は75.2%であった。誤答としては「道のりが等しいこと」のみ記述している(29.6%)、「かなたさんがかかった時間がほのかさんがかかった時間よりも短いこと」を記述しているものの不足や誤りがある(4.1%)と解答した児童が多い。このことから、道のりが等しい場合には、時間が短いほど速さが速いということに気付いているものの、そのように判断した理由を言葉や数を用いて記述することに課題があると考えられる。
- ・指導に当たっては、速さを比べるときには、一つの量だけでは比べることができず、時間と道のりという二つの量が必要になることに気付くことができるようにすることが大切である。そのために、時間が等しく道のりが異なる場合、道のりが等しく時間が異なる場合、道のりと時間が異なる場合を提示して速さを比べる活動が考えられる。目的や場面に応じた数量の処理の仕方を考える機会を設けたり、速さの意味に基づいて求めた数量が問題場面に対して妥当かどうかを判断する活動を取り入れたりして、速さの意味の理解を深めることが大切である。
- ・また、理由を説明する際に根拠となる事柄を十分に記述できるような指導も必要である。日頃の授業でも、どんな観点でどんな考察をして記述すべきかを明確にしてから説明する活動に取り組んだり、教科書の例文を参考にして説明文づくりを行ったりと、丁寧に指導を行っていく必要がある。

データの活用

- この区分の平均正答率は、県平均を1.7ポイント、全国平均を3.2ポイント上回っている。特に、「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」問題(設問5(3))の正答率は50.4%で、全国平均や県平均を5ポイント以上上回っている。この問題は、折れ線グラフから開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きな年代を読み取る必要がある。正答率の高さから、授業の中でグラフを読み取り、必要な情報を取り出す指導が充実していることが伺える。また、ペア活動やグループ活動を日常的に取り入れたり、話型を活用して自分の考えを友達に説明したりする対話的な学びを継続して行ってきたことが、考察して見いだした事実を的確に伝える力の向上につながったと考えられる。今後も、互いの見方や考え方を理解し、考えのよさを感じ合える場の工夫をしながら指導を行っていききたい。

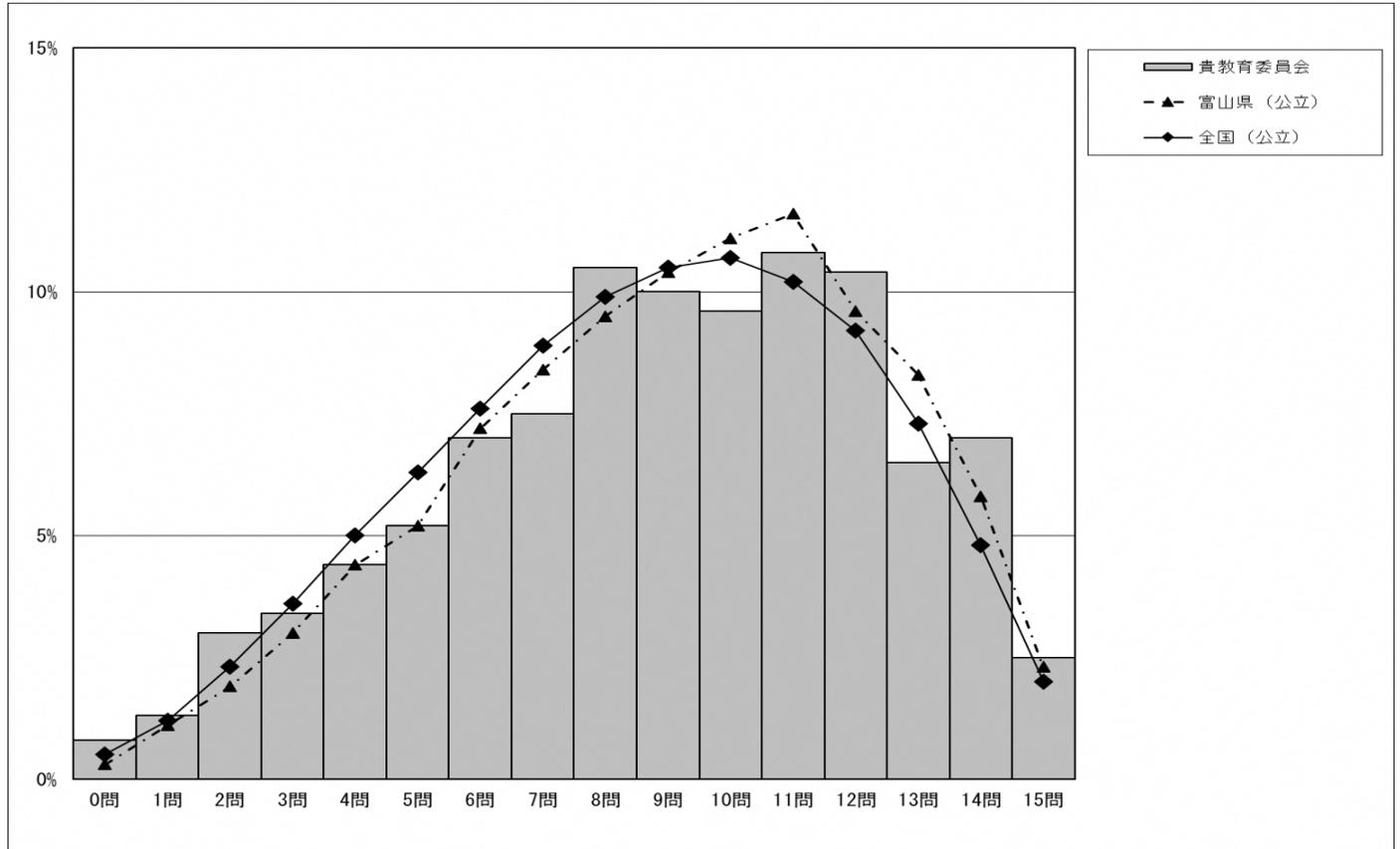
【その他】

○児童質問調査から、ICT 機器について「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」という効力を感じている児童ほど、算数の正答率が高くなっている。AIドリルを活用して個に応じた学びを保障することで基本的な知識・技能の定着がしていると実感している児童が多いと考える。さらに、友達と考えを共有・比較する場面で学習支援ソフトを有効に活用することで自分の考えが表現しやすくなったり、自分と異なる考えに触れることよさに気付いたりすることも期待できる。個別最適な学びと協働的な学びの一体化の実現に向けて、教員同士で情報交換をしながらより有効な ICT 機器の利用方法について考えていく必要がある。

中学校国語

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
射水市教育委員会	788	8.9 / 15	59	9.0	3.5
富山県(公立)	7,565	9.0 / 15	60	9.0	3.3
全国(公立)	875,574	8.7 / 15	58.1	9.0	3.4

正答数分布 グラフ【横軸：正答数，縦軸：割合】



集計結果 表【平均正答率：◎県以上】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	富山県(公立)	全国(公立)
全体		15	59	60	58.1
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	61.3	61.6	59.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	58.6	59.5	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	78.2	79.1	75.6
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	61.7	62.1	58.8
		B 書くこと	64.7	66.5	65.3
C 読むこと		49.2	50.7	47.9	
評価の観点	知識・技能	6	63.2	63.8	62.0
	思考・判断・表現	9	56.8	58.0	55.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	9	61.6	62.6	61.0
	短答式	3	◎ 65.0	64.8	61.8
	記述式	3	46.9	49.1	45.5

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<p>結果の概要</p>	<p>○全体の平均正答率は、全国平均を約2ポイント上回っている。</p> <p>○「問題形式」の全ての区分の平均正答率は全国平均を上回っており、「短答式」は、県平均も上回っている。</p> <p>○「評価の観点」の全ての区分の平均正答率は、全国平均を上回っている。</p> <p>●全体の平均正答率は、県平均を1ポイント下回っている。</p> <p>●「学習指導要領の内容」「評価の観点」の全ての区分の平均正答率は、県平均を下回っている。また、「情報の扱いに関する事項」「書くこと」の区分は、全国平均も下回っている。</p> <p>●15問中9問の無解答率が、全国平均、県平均より高くなっている。</p>
<p>各領域・評価の観点の分析</p>	<p>言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <p>○「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」問題（設問3三）の正答率は71.2%で、県平均を0.5ポイント、全国平均を2.4ポイント上回っている。本市、県、全国共に7割近い正答率であったことから、やや簡単な問題であったかもしれない。しかし、指導事項が多岐にわたるなかで、基本的な指導が大切にされていることも伺える。またタブレット端末を使った家庭学習の推進等も反映していると考えられる。</p> <p>●「文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる」問題（設問3二）の正答率は53.6%であり、県平均を1.2ポイント、全国平均を0.2ポイント下回っている。「すぐに」がかかる語句の選択から修飾と被修飾の関係を理解していない生徒が半数近く存在することが伺える。修飾と被修飾の関係については、修飾語の役割を理解するだけでなく、どのように修飾語を使うと分かりやすい文になるかを具体的に考えて話し合うような活動が効果的である。ここからも、語感を磨き、語彙を豊かにする活動を工夫することが必要であると考えられる。</p> <p>情報の扱い方に関する事項</p> <p>○「意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」問題（設問1三）の正答率は45.1%であり、全国、県、本市ともに正答率が半分以下であることから、生徒にとってはやや難しい問題であることが伺える。この問題は、情報の扱い方という面だけではなく、問題文をしっかりと捉えられる生徒が正答することができたと考えられる。問題文の中の「反映されているので」の前にある内容が理由であることを捉えられるかで正誤が分かれるだろう。本市の正答率は全国平均を1.1ポイント、県平均を0.9ポイント上回っている。市中教研では「言葉に関する見方・考え方を働かせる」ことを研修のテーマに掲げてきた。その中で、内容を漠然と捉えるのではなく、例えば説明的文章の指導において、前後のつながりを表現から考えることを重視してきた。言葉に細かく着目させる活動を推奨してきたことが、一定の成果として現れたものと考えられる。</p> <p>●「具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているのかどうかをみる」問題（設問2二）は、正答率は72.1%と低くはないものの、全国平均より3.1ポイン</p>

ト、県平均より 2.6 ポイント低い。県平均が全国平均を下回っている数少ない問題である。大半の生徒が正解の 2 を選択することができるものの、他の説明を選択する生徒は、それぞれ 8 %前後で偏りなく存在している。これは「具体的」や「抽象的」、「推測」、「意見」の意味を明確に理解していない生徒が一定数存在することを表している。普段の授業において身近な情報の中から具体と抽象の関係になっている事例を取り上げて、それぞれの概念と実際の事柄とを結び付けて理解するなど、語感を磨き語彙を豊かにする活動を工夫する必要があると考えられる。

話すこと・聞くこと

○「必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる」問題（設問 1 一）の正答率は、全国平均を 3.3 ポイント上回っている。また、「資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる」問題（設問 1 二）の正答率は、全国平均を 4.6 ポイント上回っている。県平均、全国平均ともに上回っている設問は 15 問中 4 問あり、そのうち 2 問が「話すこと・聞くこと」である。「話すこと・聞くこと」の学習は、国語科の授業におけるディベートやパネルディスカッション、総合的な学習の時間におけるパワーポイントを用いた発表をはじめ、他の教科においても相手や目的を意識して話す等の多様な場面が、増えている。このような機会を多くもつことが、資料や ICT 機器を用いて自分の考えを分かりやすく伝える力の獲得につながっていることが考えられる。

書くこと

●「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる」問題（設問 2 四）の無解答率は、8.0%と 2 番目に高い値を示している。正答率も 45.1%と低い。また、「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる」問題（設問 3 四）の無解答率も県、全国の平均を下回っているものの 13.2%と高い値を示している。全国的にどちらも正答率が低い問題ではあるものの、書くことについては多くの生徒が抵抗を感じていることが伺える。これは、「記述式」の正答率が県平均を 2.2 ポイント下回っていることや、前年度と比べ 22.8 ポイント低いことから、今後の状況が懸念される。今後は、授業の中で 200 字程度の短作文を書いたり、それを吟味したりする活動を繰り返し取り組むことが必要と考えられる。また、タブレットを利用して、書いたものを共有することで緊張感をもって書く機会を設けたり、友達の文章から自分の文章のよい点や改善点を見いだしたりすることも有効であると考えられる。

●また、この問題では、解答類型 2（表現を工夫して物語の最後の場面を書くことができているが、自分の表現にある効果等について書くことができていない）の誤答が 25.0%と高い値を示している。この問題は比喩表現や情景描写を用いて工夫して書くことが可能な問題であり、「言葉に関する見方・考え方」を意識し、日頃の授業では「読むこと」でそれらのことは繰り返し指導しているが、「書くこと」に生かす指導の工夫が必要である。

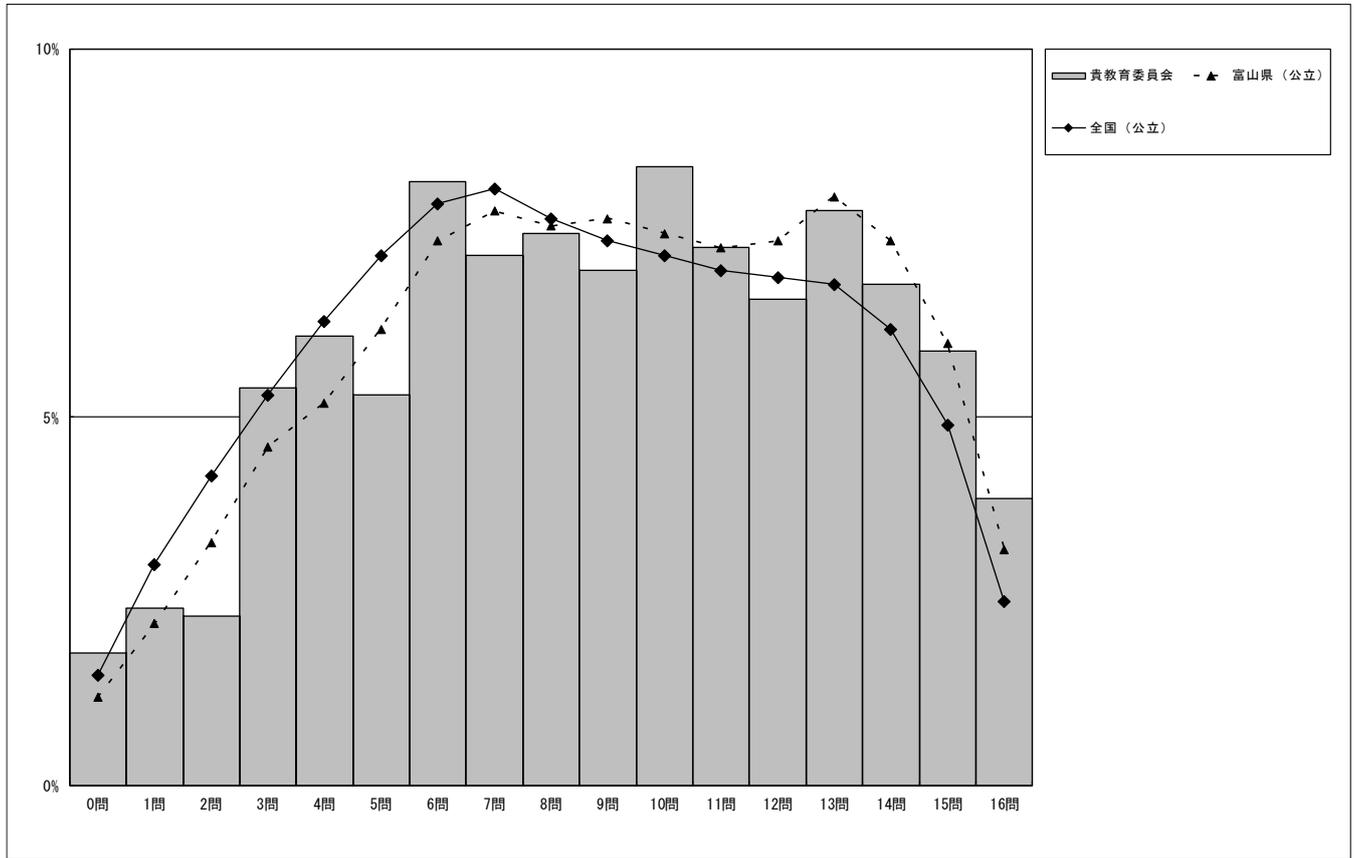
読むこと

- この区分の平均正答率は、49.2%と低くなっている。前年度と比較しても15.5ポイント下がっている。難易度の違い等から単純に前年度と比較することはできないが、生徒が普段から教科書の文章だけではなく多様な文章に触れることが必要であると考えられる。
- 「文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる」問題（設問2一）の無解答率は1.6%と他の設問と比べてさほど高くはないものの、正答率は37.1%と最も低い。選択問題のため、多くの生徒が抵抗なく問題に取り組んだとみられるが、解答1と2の両方を答えることができた生徒は少ない。このことから説明文と図表とを結び付けて内容を解釈することに課題がみられ、普段から、図表と文章とを交互に読む習慣が不足していることが考えられる。教科書には、図表と文章とが効果的に掲載されている教材がどの学年にもあり、相互を合わせて読むことによる効果を実感できるように学習活動を工夫することが大切である。また、問題文では「二つ選びなさい」ということが波線で強調されているものの、普段の学習等では「最も適切なもの」を選ぶ問題が多く、正確に問題文を理解していないための誤答であることも考えられる。
- 「文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかをみる」問題（設問2三）では、解答類型4（Bの欄に4と解答しているが、Aの欄は1と解答）による誤答が17.1%と高い値を示している。文章の前後の「三次元」という言葉からAの欄を2と判断することができると考えられるが、ネギの葉の形が、イラストを基に説明した葉の形の「多様性」と思い込んで読んだことによる間違いと考えられる。また「書くこと」の「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」問題（設問3一）でも同様の傾向がみられ、解答類型2（「紙の辞書よりもオンラインの辞書の方がよいこと」をより明確に伝えようとしている判断）による誤答が12.2%と高い値を示している。これは問題文の内容ではなく自分の経験等から解答していることが考えられる。書き手の伝えたい内容を正確に読み取らなければ、その表現の意図に気付くことはできない。授業等で、「読み間違い」をその都度指摘したり、話合いの中で気付かせたりすることを繰り返すこと、また、ドリル学習等の中で、「なぜそれが正解なのか」「どこから考えられるのか」の確認を繰り返すことが大切である。
- 「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる」問題（設問2四）の正答率は45.1%と低く、要約するために適切な情報を取り上げて書くことに課題があると考えられる。説明的な文章を読む際には、「筆者は何を言いたいのか」という発問を取り入れ、おおまかな内容を生徒が捉えているのか確認した上で、要約する際にどの言葉をキーワードとして入れるべきなのかを考える活動等、「読むこと」と「書くこと」を関連付けた指導が必要である。

中学校数学

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
射水市教育委員会	790	8.9 / 16	56	9.0	4.2
富山県(公立)	7,573	9.0 / 16	56	9.0	4.1
全国(公立)	875,952	8.4 / 16	52.5	8.0	4.1

正答数分布 グラフ【横軸：正答数，縦軸：割合】



集計結果 表【平均正答率：◎全国、県以上】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	富山県(公立)	全国(公立)
全体		16	◎ 56.0	56.0	52.5
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	◎ 55.6	55.6	51.1
	B 図形	3	39.6	41.6	40.3
	C 関数	4	63.3	63.8	60.7
	D データの活用	4	◎ 59.9	59.8	55.5
評価の観点	知識・技能	11	66.6	67.2	63.1
	思考・判断・表現	5	31.4	31.7	29.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	61.1	61.7	58.5
	短答式	6	71.1	71.7	67.0
	記述式	5	31.4	31.7	29.3

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<p>結果の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●全体の平均正答率は、全国平均を 3.5 ポイント上回っており、県平均と同等である。 ○「数と式」の平均正答率は、全国平均を上回っており、県平均と同等である。 ●「図形」の平均正答率は、全国平均、県平均ともに下回っている。 ●「関数」の平均正答率は、全国平均を上回っているが、県平均を下回っている。 ○「データの活用」の平均正答率は、全国平均、県平均ともに上回っている。 ●「評価の観点」の平均正答率の全ての区分は、全国平均を上回っているが、県平均は下回っている。 ●「問題形式」の全ての区分の平均正答率は、全国平均を上回っているが、県平均を下回っている。 ○無解答率は概ね全国平均、県平均より低い。一方で、グラフや図形を読み取る「選択式」の無解答率に一部高い問題がみられる。
<p>各領域・評価の観点の分析</p>	<p>数と式</p> <p>この区分の正答率は、全ての問題において全国平均を上回っている。授業での問題練習やプリント学習等で、時間をかけて繰り返し練習したり、ペア学習やグループ学習で説明し合ったりすることで学習内容の定着を図る指導がなされている状況が伺える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「方程式を解いたり、二元一次方程式を関数関係を表す式とみて考察したりする場面において、目的に応じて式を変形することができるかどうかをみる」問題(設問 2)の正答率は 60.4%であり、全国平均を 7.9 ポイント、県平均を 0.1 ポイント上回っている。誤答には、解答類型 6 ($y = -3x + 1$) や解答類型 10 ($1/2$ 等の数値) がみられた。等式を「$2y = -6x + 1$」とした上で、y の係数である 2 で両辺を割る手順や、等式の性質を根拠にしていることの確認を引き続き大切にする必要があると考える。 ○「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる」問題(設問 6(2))の正答率は 44.6%であり、全国平均を 8.7 ポイント、県平均を 1.6 ポイント上回っている。誤答には、解答類型 99 ($a^2 + b^2 + c^2$ や $ab + bc + ca$) がみられた。設問 2 と同様に目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する活動を引き続き行う必要があると考える。 <p>図形</p> <p>この区分の正答率は、全ての問題において県平均を下回っており、図形の移動の性質を見いだす活動や筋道を立てて考え、証明する活動を充実させる工夫が必要であると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる」問題(設問 9(1))の正答率は 23.7%で、全国平均を 2.1 ポイント、県平均を 1.8 ポイント下回っている。正答率が低いことから、図形の証明については「書き方」を繰り返し指導

する必要がありと考えられる。誤答には、解答類型5(仮定として $AQ=PB$ を用いているもの)や解答類型8($\angle ACQ = \angle PCB$ について記述が不十分なもの)が多く、結論を証明の根拠として用いてしまったり、合同条件の根拠となる等しい角について説明ができなかったりしている。事柄が成り立つことを証明するためには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように繰り返し指導することが大切である。本設問の場合は、2つの線分が等しいことを証明するための方針(2つの三角形の合同を示す)を立て、そのために必要な関係(2組の線分とその間の角がそれぞれ等しい)を見だし、結論に導くことを表現できるようにすることが大切である。その際、 $\angle PCQ + 60^\circ$ が問の角として利用できることや結論は仮定として利用できないことについても確認することが大切である。

関数

この区分の平均正答率は、全国平均を上回り、県平均を下回っている。一次関数について、式とグラフの特徴を関連付ける活動や、事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動を充実させることが必要だと考えられる。

- 「一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる」問題(設問4)の正答率は71.6%であり、全国平均を6.3ポイント、県平均を1.2ポイント上回っている。解答類型3(ウのグラフと解答しているもの)の誤答が多く、傾きを1より大きくするとグラフの傾き具合は小さくなると捉えている生徒がいる。指導に当たっては、様々な一次関数のグラフをかく活動に加えて、ICT機器を活用して傾きや切片のどちらかを固定し、もう一方の値を変化させたときのグラフの変化の様子を観察する活動も有効であると考えられる。
- 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」問題(設問8(2))の正答率は最も低い18.4%で、全国平均を1.3ポイント上回り、県平均を0.2ポイント下回っている。解答類型から、式やグラフを用いてスロープの使用時間の差を求めようとしているが、その方法を数学的に表現できていない生徒がいると考えられる。指導に当たっては、使用時間の違いを求めた後に、どのようにして解決にたどり着いたかを説明し合う活動を取り入れ、振り返りながら十分な説明に洗練していく場面を設定することが有効であると考えられる。

データの活用

この区分の正答率は、全ての問題において全国平均を上回っている。一方で、県平均をわずかに下回っている問題がある。四分位範囲を用いて分布の特徴を捉える活動の充実が伺える。一方で、データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を説明する活動の工夫が必要であると考えられる。

- 「与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる」問題(設問7(1))の正答率は82.4%であり、全国平均を8.1ポイント、県平均を0.3ポイ

ント上回っている。ここから、授業において代表値の必要性和意味を理解し、代表値を求める指導の充実が伺える。

- 「複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる」問題(設問7(3))の正答率は56.5%であり、全国平均を8.0ポイント、県平均を2.8ポイント上回っている。解答類型2(四分位範囲はだんだん小さくなる)の誤答が多く、四分位範囲と範囲を混同したと考えられる。授業においては、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較する活動を通して四分位範囲について正確に理解する指導がなされている状況が伺える。一方で、問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して多面的に分析し、データの分布の傾向を捉え、その結果について根拠を明らかにしながら批判的に考察し、判断する活動を一層充実させる必要と考えられる。
- 「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」問題(設問7(2))の正答率は27.6%であり、全国平均を1.7ポイント上回り、県平均を0.8ポイント下回っている。解答類型6(箱ひげ図の箱の長さやひげの長さについて記述しているもの)や8(箱ひげ図の読み取りを誤って記述しているもの)、99の誤答が多く見られた。授業においては、複数の集団のデータの分布について箱ひげ図の特徴を捉えて全体としての傾向を読み取り、箱の位置や四分位数等を根拠として数学的な表現を用いて説明する活動を取り入れることが大切であると考えられる。

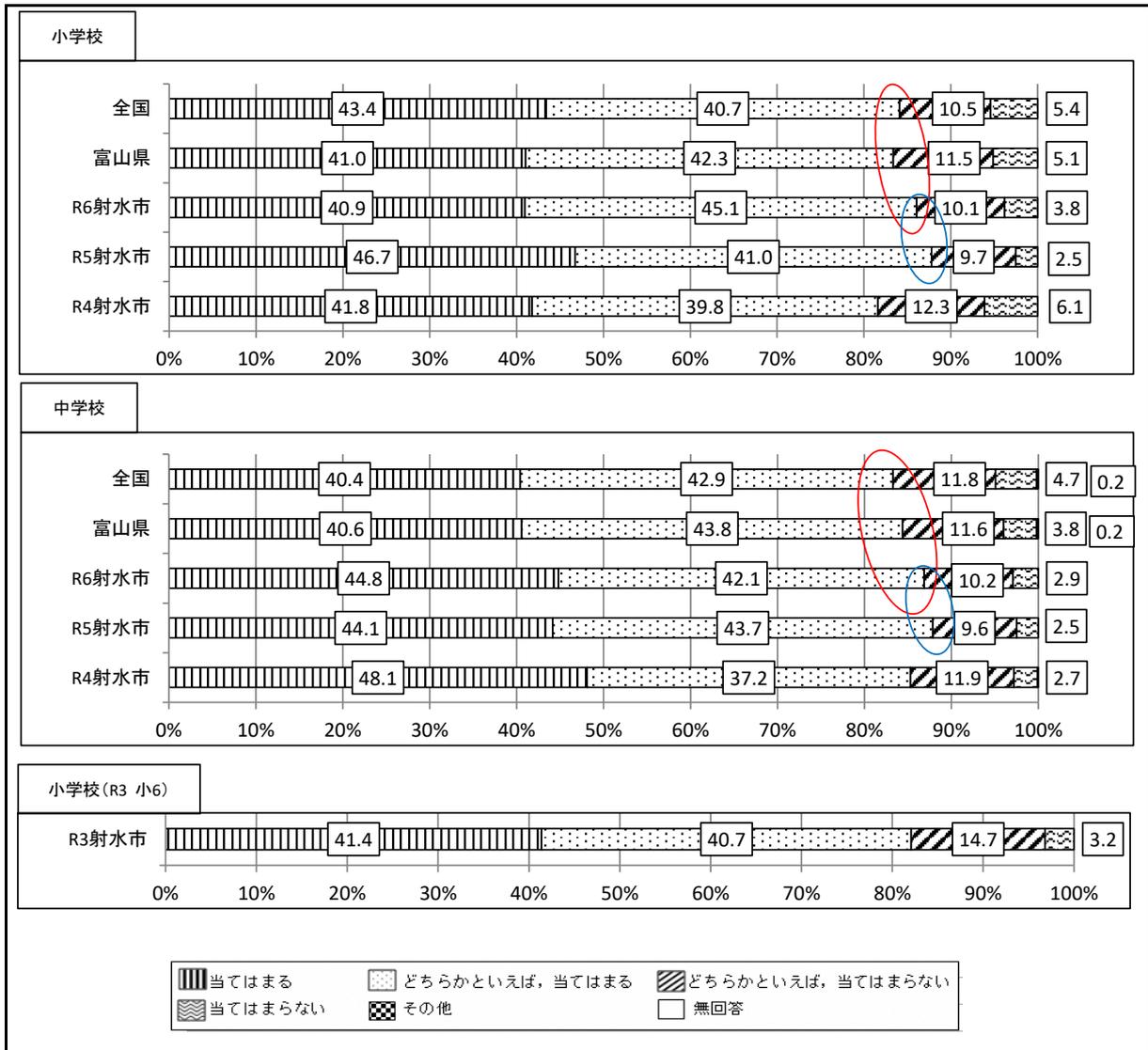
その他

- ・無解答率が、県平均や全国平均に比べて低い設問が多い。このことは、昨年度の分析・考察を基に、授業における学び合いを通して生徒同士が互いの考えを出し合いながら、試行錯誤し、深め合う授業を行ってきた成果と考えられ、今後も継続した指導が大切である。一方で、「選択式」の問題で無解答率が比較的高い問題がみられた。自ら問題を解き、自分の中に解答を用意してから選択肢を選ぶ姿勢が大切である。日頃の学習においても「短答式」や「記述式」だけではなく、あえて「選択式」の問題を意図的に出題することも検討する必要がある。

3 学習状況調査の結果及び考察 <抜粋>

(1) 児童・生徒質問調査より

① 自分には、よいところがあると思う



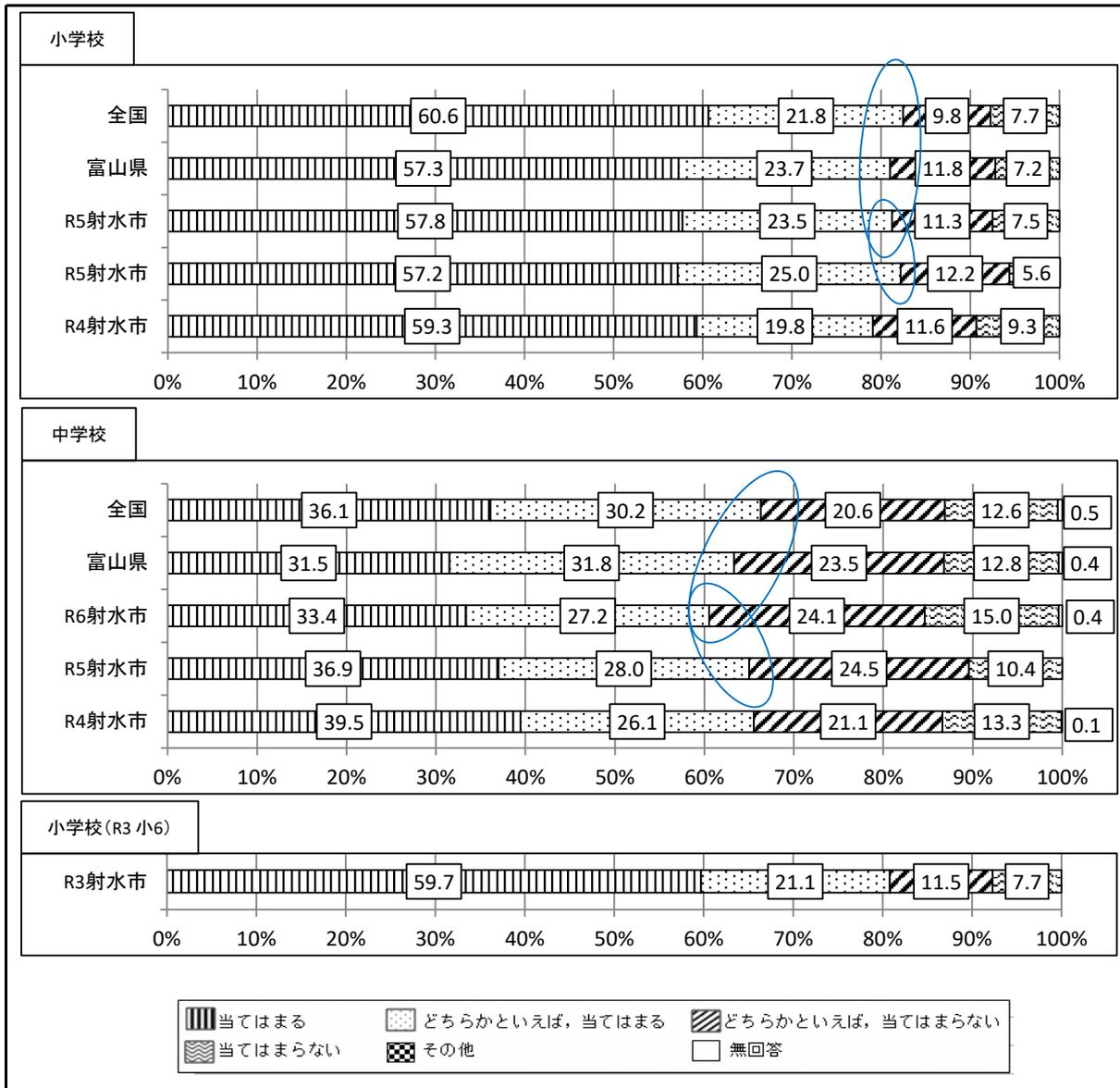
【考察】

「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値は、小学校において全国平均を1.9ポイント、県平均を2.7ポイント、中学校の全国平均を3.6ポイント、県平均を2.5ポイント上回っており、小・中学校ともに自己肯定感が高い結果となっている。

しかし、昨年度に比べると、小学校で1.7ポイント、中学校で0.9ポイント減少している。一人一人の活躍できる場を増やし、よさやがんばりを認め、伝え合い、自覚できる場を増やしていくことが必要と考える。

今後も、「学び高め合う集団づくり推進事業」を基盤に、「人間関係づくり、学年・学級経営」と「学力向上、授業力向上」の二面から学び合いの成立と高まりを推進することや、行事や学習等における振り返りを通して、児童生徒が自らの成長を実感するとともに相互によさを認め合う機会を積極的に設けることが大切である。

② 将来の夢や目標を持っていますか。



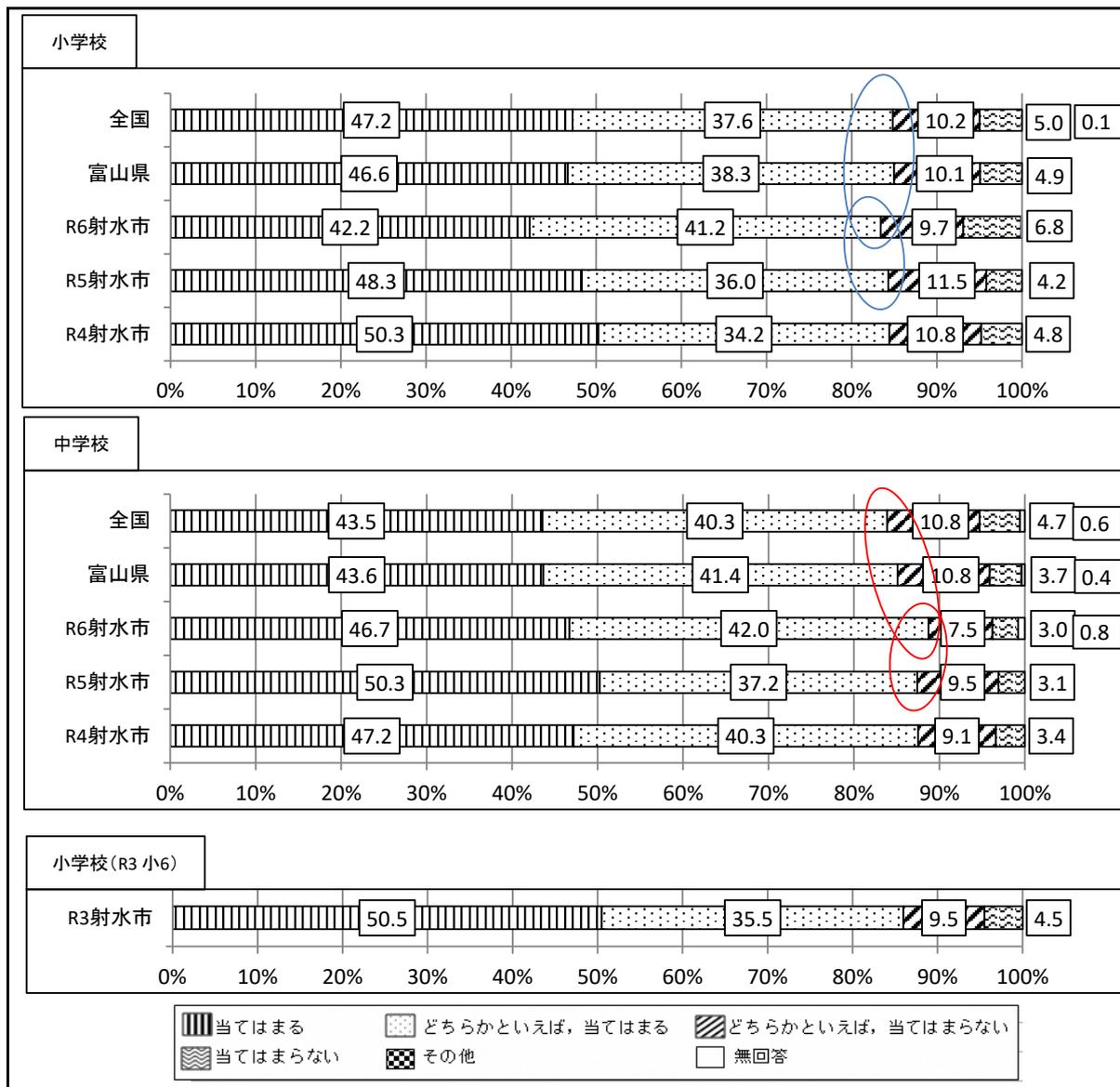
【考察】

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた値は、全国平均を小学校は1.1ポイント、中学校で5.7ポイント下回っている。県平均との比較では、小学校は0.3ポイント、中学校は2.7ポイント下回っている。

昨年度との比較では、小学校では0.9ポイント、中学校では4.3ポイント減少している。

今一度、教育活動全体とキャリア教育とのつながり確かめ、キャリアパスポートを活用したキャリア教育の進め方を再点検し、小中が連携して、系統的、計画的にキャリア教育に取り組むことが必要と考える。特に、先行きが不透明で将来に希望を抱きづらい状況下で、理想と現実の差に悩む生徒も少なくない中学校では、将来の夢や進路への憧れ、具体的な目標意識をもたせる指導の工夫、充実が求められる。

③ 学校に行くのは楽しいと思う



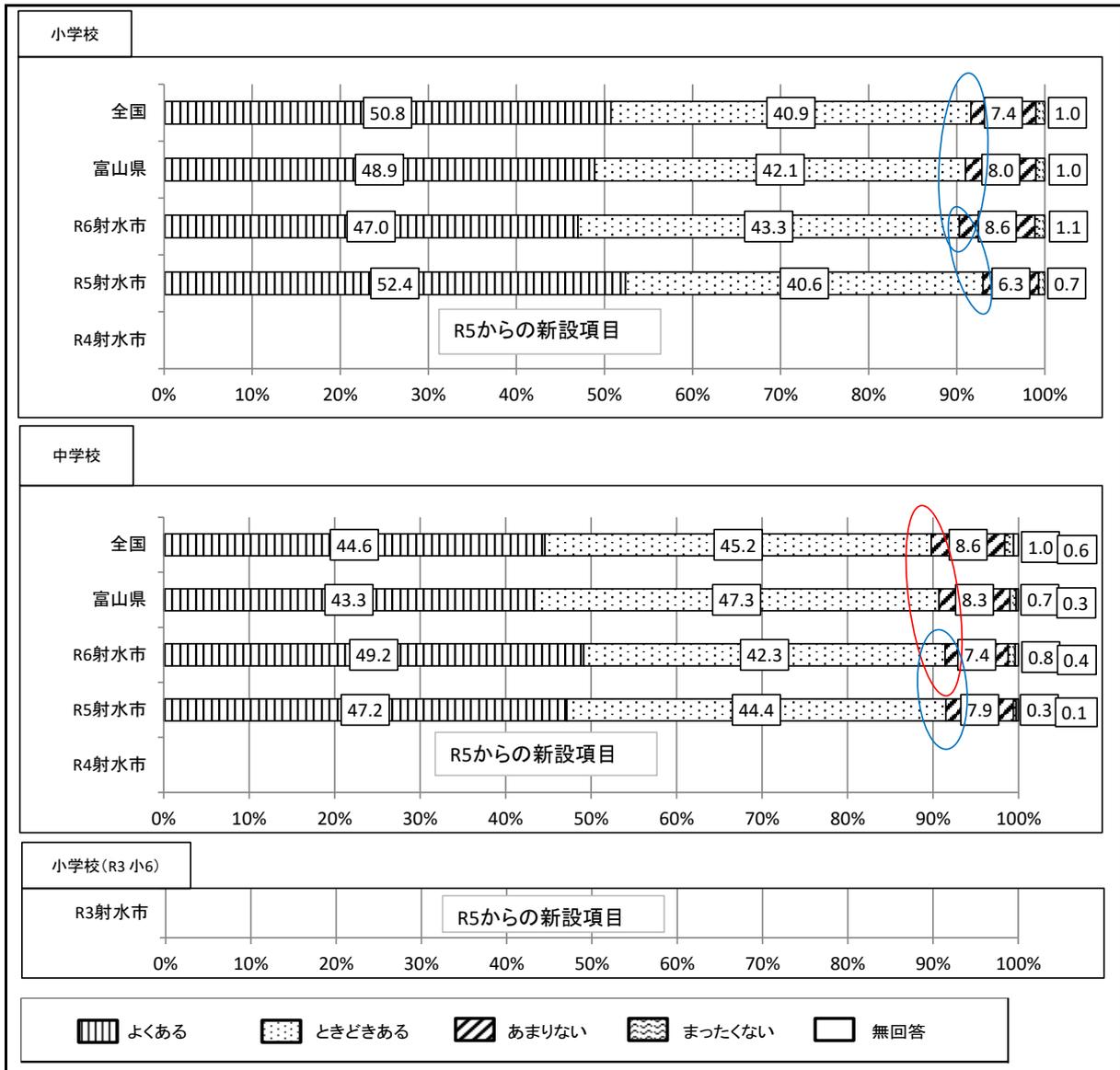
【考察】

「当てはまる」の値は、小学校で全国平均を5.0ポイント、県平均を4.4ポイント下回り、中学校で全国平均を3.2ポイント、県平均を3.1ポイント上回った。「どちらかといえば、当てはまる」を含めると、小学校は83.4%で全国・県平均を下回り、中学校は88.7%で全国・県平均を上回っている。

昨年度との比較では、小学校は0.9ポイント減少し、中学校は1.2ポイント増加した。

今後も、児童生徒の実態に基づいた授業づくりを行い、一人一人が「分かる」「できる」と感じることで授業改善、一人一人が活躍できる学級づくりや行事の実施が大切である。また、「当てはまらない」（楽しくない）と回答した児童生徒や、データに現れない不登校児童生徒に対して、個に応じたきめ細かな支援を継続していくことが望まれる。

④ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。



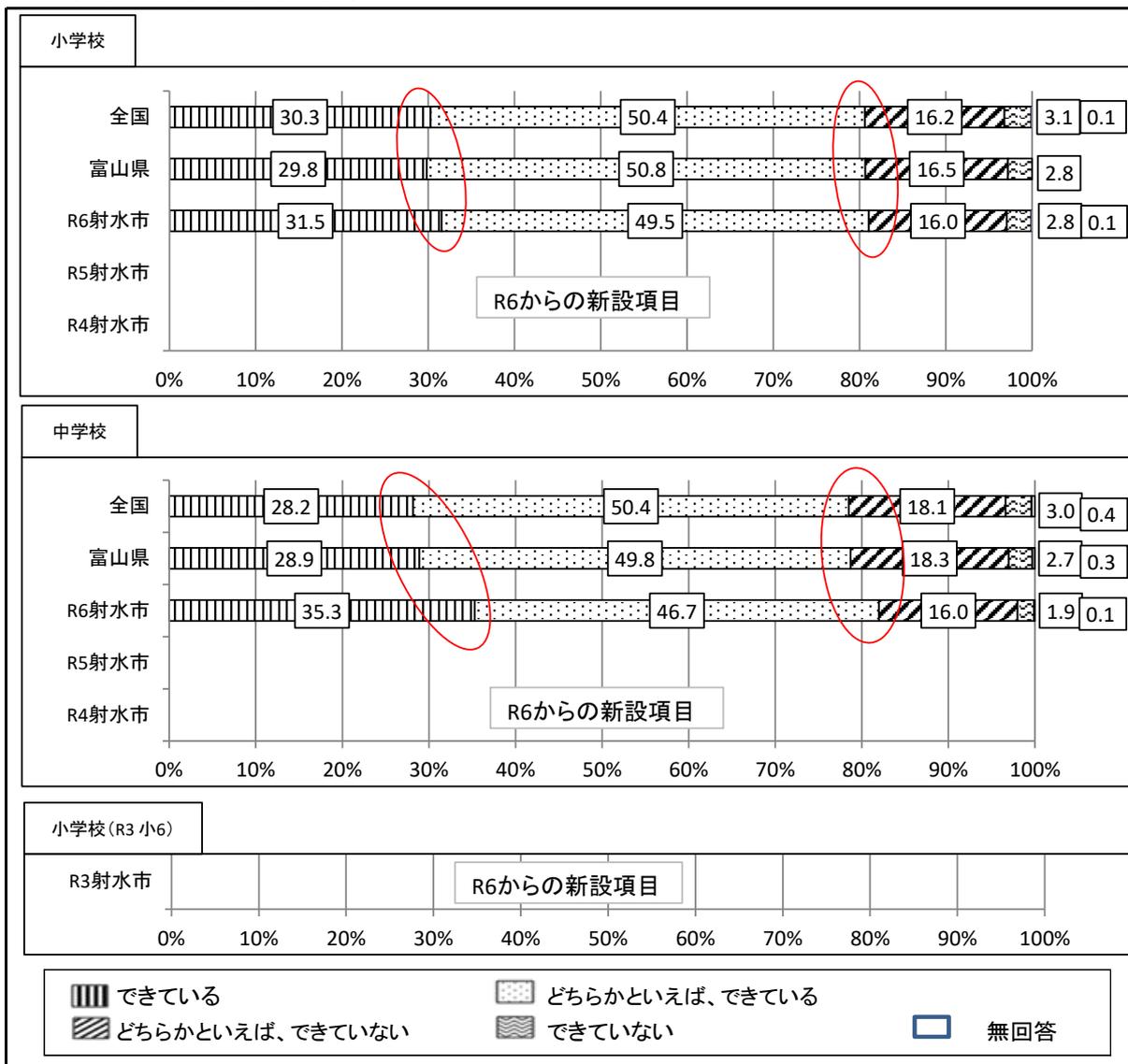
【考察】

「よくある」「ときどきある」を合わせた値は、小学校は全国平均を1.4ポイント、県平均を0.7ポイント下回り、中学校では全国平均を1.7ポイント、県平均を0.9ポイント上回っている。

昨年度との比較では、小・中学校ともに減少したが、9割の児童生徒が肯定的に回答している。

子供たちが幸せに感じる時は、分からないことが分かったとき、できないことができたとき、自分のよさを認め、困ったときには助けてくれる仲間がいるとき等が考えられる。今後も学校、家庭、地域での支援の在り方を探り、三者協力のもと継続して行うことが、子供たちの幸せな気持ちをさらに大きくすることにつながると考える。

⑤ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

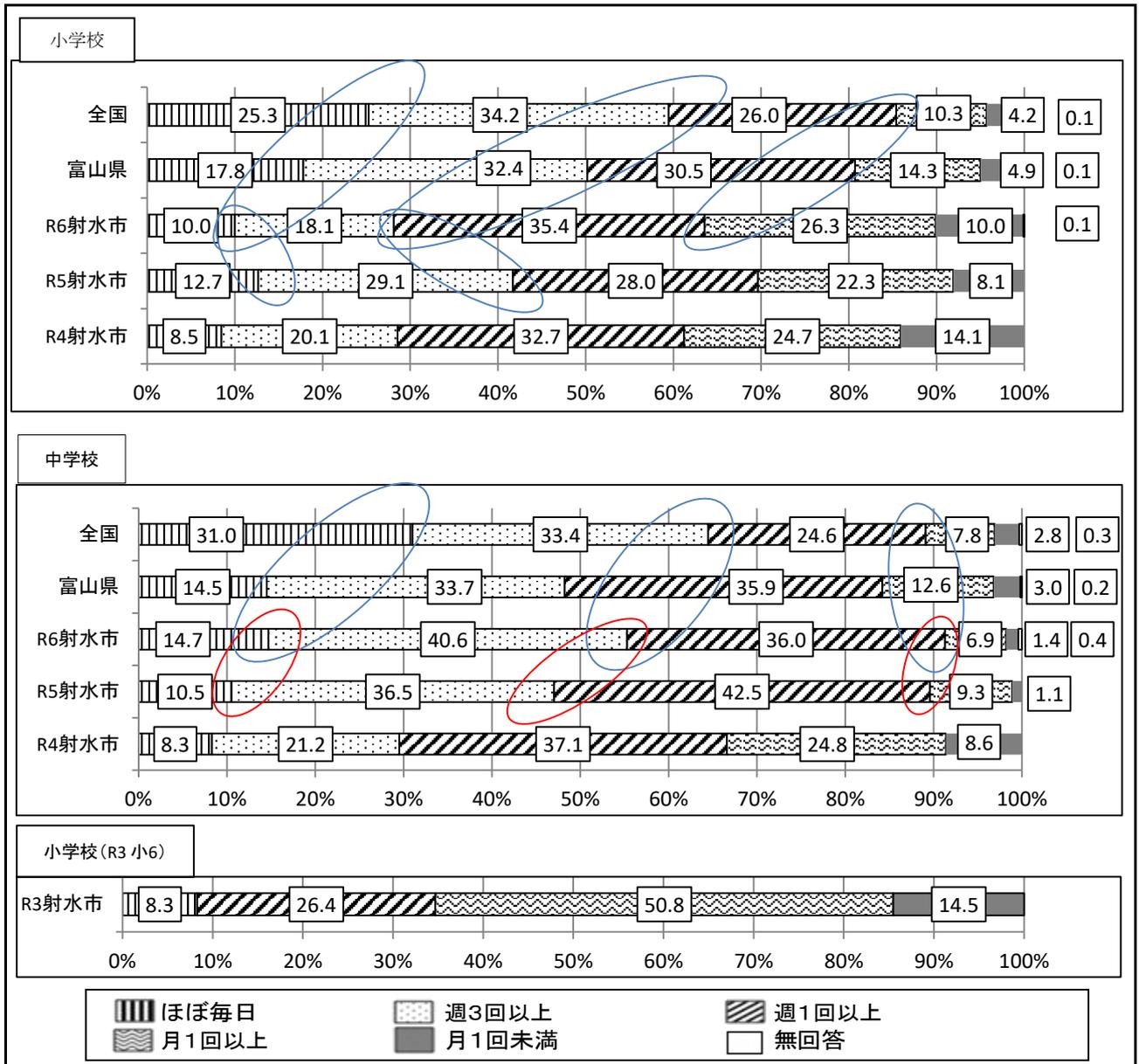


【考察】

「できている」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに、全国・県平均を上回り、「できている」「どちらかといえば、できている」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校でともに8割を超えている。クロス集計から「できている」「どちらかといえば、できている」と回答した児童生徒の平均正答率は、「できていない」「どちらかといえば、できていない」と回答した児童生徒より、どの教科においても高いことが分かり、自ら学び方を考え、工夫する力と学力には相関関係があると考えられる。

今後も、様々な教育活動において、児童生徒が課題に向き合ったとき、教師がすぐに解決方法を示すのではなく、児童生徒自らが学び方を考え、工夫できる場と時間の確保に努めることが大切である。

⑥ 昨年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。



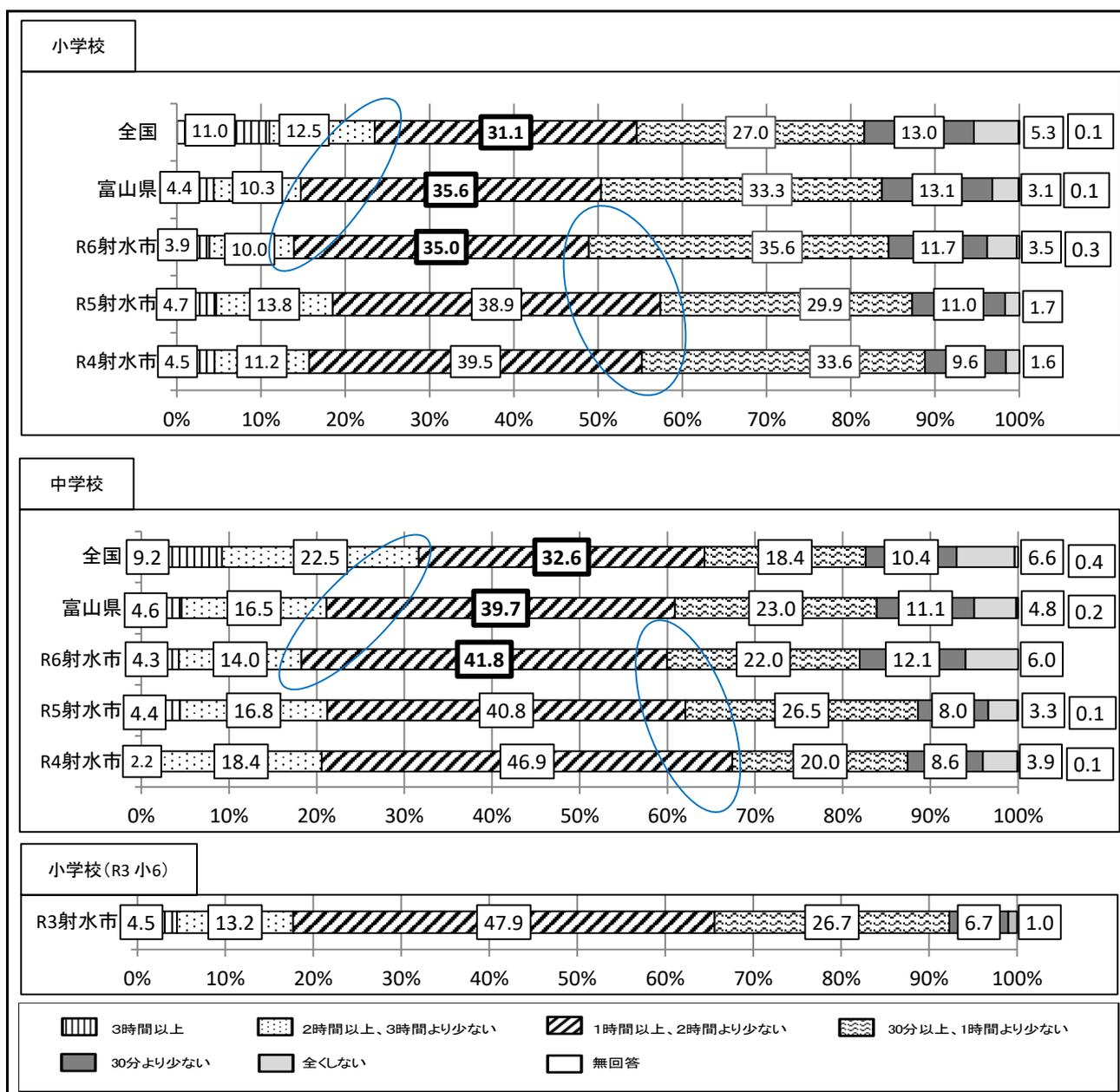
【考察】

小学校において、「ほぼ毎日」「週3回以上」使用したと回答した児童の割合は、全国平均を31.4ポイント、県平均を22.1ポイント下回っている。昨年度との比較では、「ほぼ毎日」使用していると回答した児童は2.7ポイント、「週3回以上」使用していると回答した児童は11.0ポイント減少し、顕著である。中学校において、「ほぼ毎日」「週3回以上」使用したと回答した生徒の割合は、全国平均を9.1ポイント下回り、県平均を7.1ポイント上回っている。昨年度との比較では、中学校において「ほぼ毎日」使用していると回答した生徒は4.2ポイント増加し、「週3回以上」使用していると回答した生徒は4.1ポイント増加した。

クロス集計では学力との相関関係は見られないものの、児童生徒の将来を考えると、ICT機器を筆記用具のように使いこなす資質・能力の育成は喫緊の課題である。

この結果を真摯に受け止め、原因を明らかにし、解決策に向け、対策を実行する必要がある。それと同時に、ICT機器のより有効な活用方法を模索し、研修等で広めることが望まれる。

⑦ 平日学校の授業以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか。



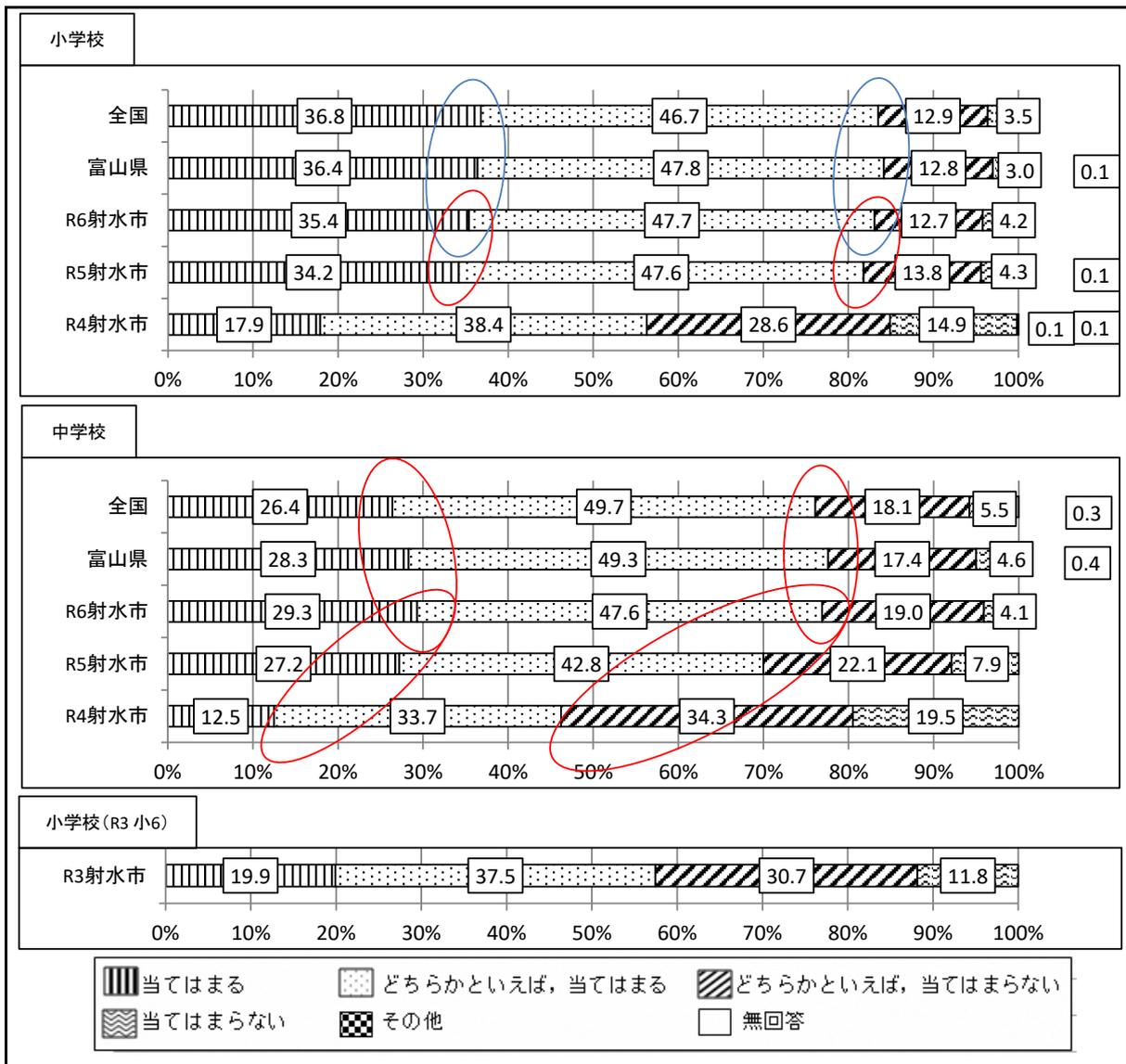
【考察】

小・中学校ともに、「2時間以上」家庭学習等に取り組む児童生徒は全国・県平均を下回っている。一方、「1時間以上2時間未満」の児童生徒は全国平均より多い。

昨年度との比較では、小・中学校とも1時間未満の児童生徒が増加の傾向にある。

小学校では、本市全体の取組である「進んで学ぶ射水っ子」のノート表紙を活用した家庭学習の推進が一定の成果を上げてきたが、課題の内容改善や意欲付けの工夫が必要であるとする。中学校では、ネット利用状況とも関連付けながら家庭学習の目標を考え、家庭学習時間の確保、増加を図っていく必要があると考えられる。また、本市で導入しているAIDリルを周知し、積極的に活用していくことで、意欲的で効果のある家庭学習にすることができると思う。

⑧ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
 (R4、R3は「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」)

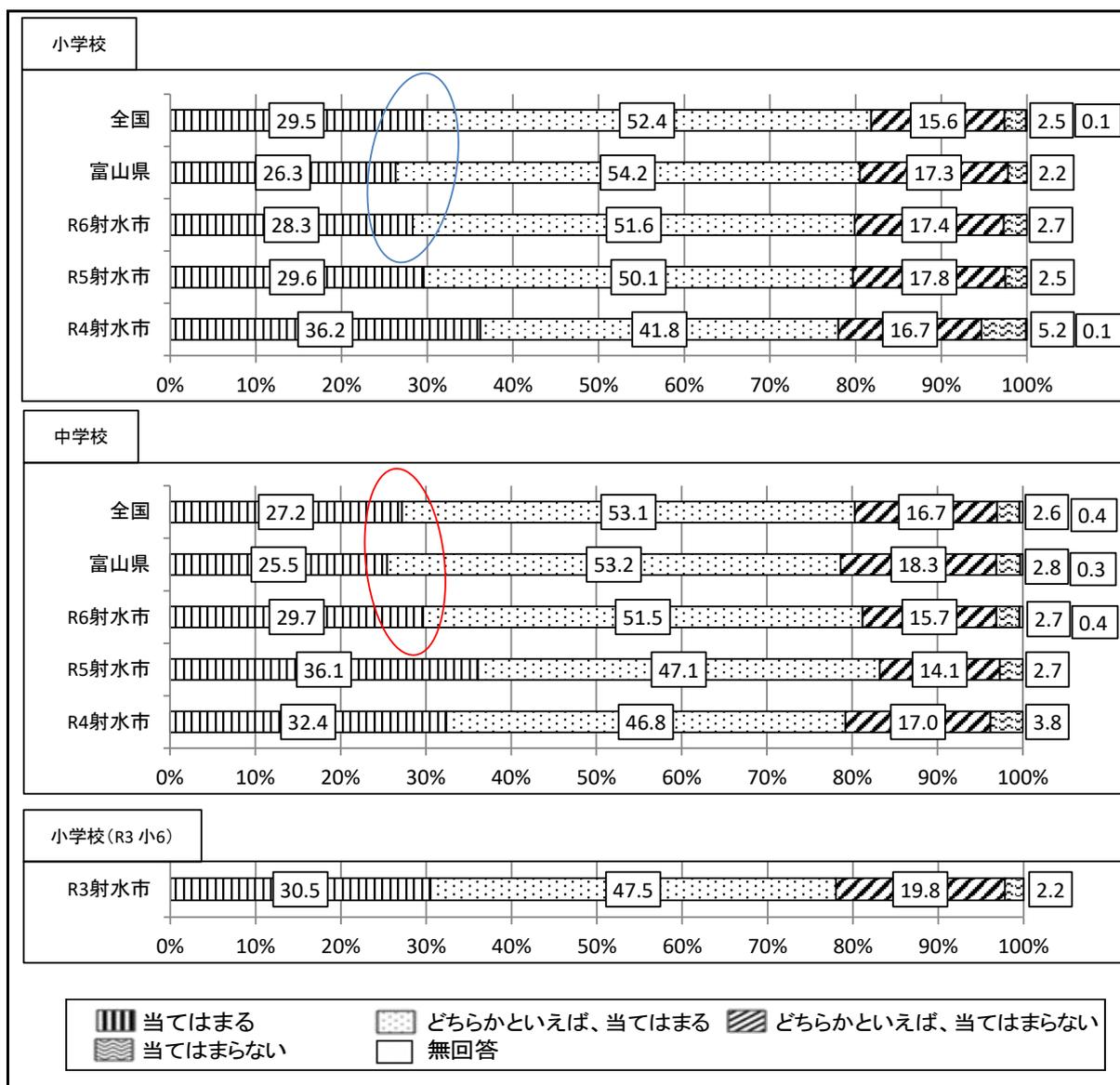


【考察】

小学校では、「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均を1.4ポイント、県平均を1.0ポイント下回っている。中学校では、「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全国平均を2.9ポイント、県平均を1.0ポイント上回っている。また、小・中学校ともに「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、昨年度より増加して小学校では8割を越え、中学校では8割近くまで増加し、多くの児童生徒が地域貢献に前向きな気持ちをもっていることが伺える。

今後も、様々な教育活動を地域と連携して行い、地域の発展を願う気持ちを育むとともに、防災や防犯の観点からも、地域の一員としての自覚をもつことの大切さを伝えていくことが望まれる。

⑨ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた

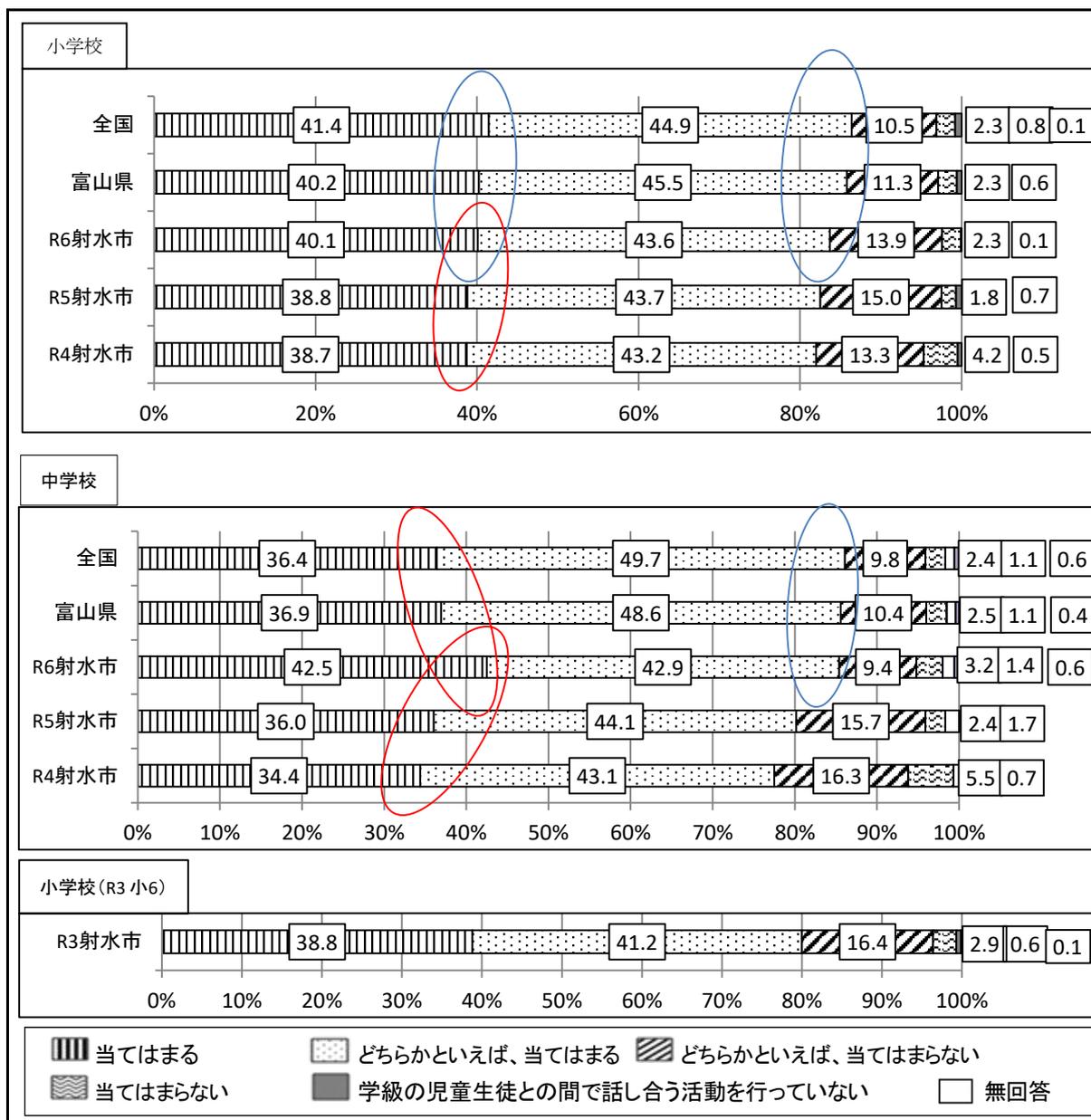


【考察】

小学校では、「当てはまる」と回答した児童の割合は、28.3%で、全国平均を1.2ポイント下回り、県平均を2.0ポイント上回っている。中学校では、「当てはまる」と回答した生徒の割合は、29.7%で、全国平均を2.5ポイント、県平均を4.2ポイント上回っている。クロス集計から「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率は、「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童生徒より、どの教科においても高くなっており、授業における主体的な学びと学力には相関関係があると考えられる。

今後も、「射水スタンダード～授業のA・B・C～NEXT」にある、「子供が興味をもち主体的に取り組む学習課題・学習活動の設定」や「個の考えを生かした対話的な学びの促し」、「より深い思考や交流を生み出す構造的な板書」等を意識した授業に取り組み、子供の学びを「つなげる」「広げる」「深める」授業の工夫をしていくことが望まれる。

⑩ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

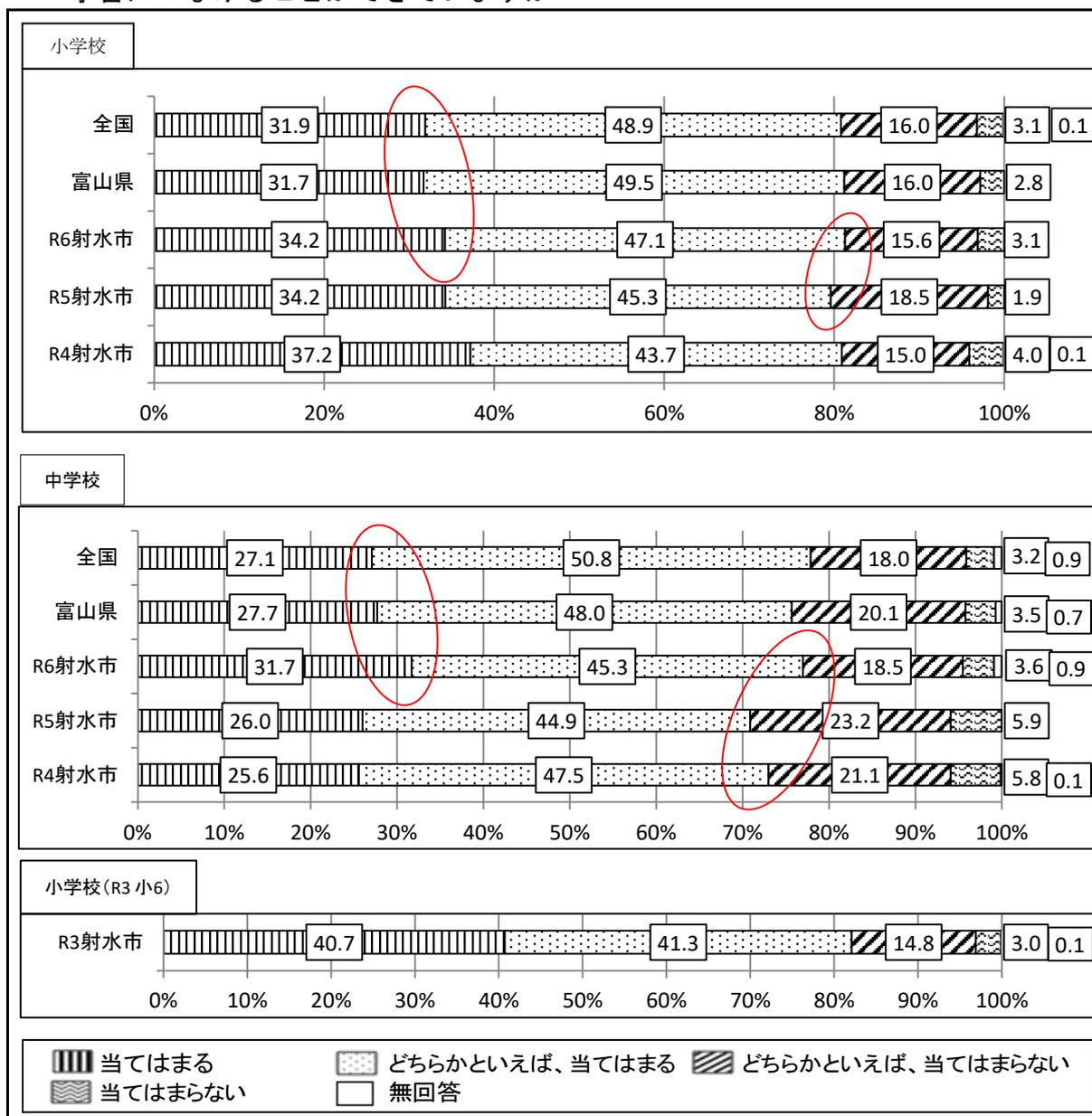


【考察】

小学校では、「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均を1.3ポイント下回り、県平均とほぼ同等である。また、昨年度との比較では、1.3ポイント増加した。中学校では、「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全国平均を6.1ポイント、県平均を5.6ポイント上回った。昨年度との比較では、6.5ポイント増加し、「どちらかといえば、当てはまる」も含めると、話し合う活動が自分の考えを深めたり、広げたりすることにつながると考える児童生徒の割合は、8割を大きく越えている。クロス集計から「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率は、「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童生徒より、どの教科においても高いことが分かり、自分の考えを深めたり、広げたりする話し合い活動と学力には相関関係があると考えられる。

今後も、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、活発な話し合い活動が行われるよう授業改善を進めていくことが望まれる。そのためにも、WEBQU調査を活用する等、望ましい集団づくりに努めていくことが大切だと考える。

⑪ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

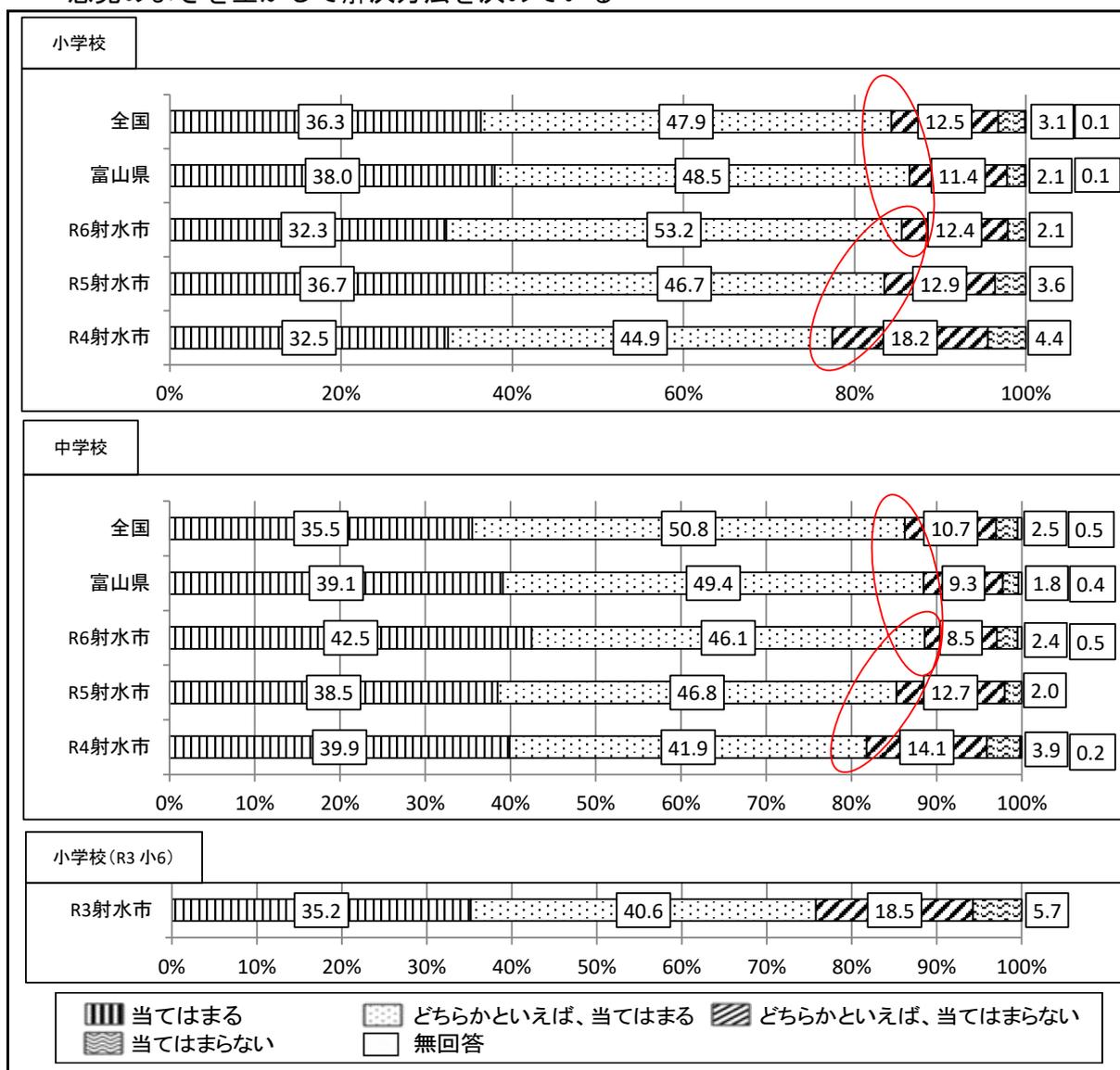


【考察】

小学校では、「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均を2.3ポイント、県平均を2.5ポイント上回っている。中学校でも、全国平均を4.6ポイント、県平均を4.0ポイント上回っている。また、昨年度との比較では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに増加している。クロス集計から「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率は、「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童生徒より、どの教科においても高くなっており、学習内容の見直しと学力には相関関係があると考えられる。

「射水スタンダード～授業のA・B・C～」では、小中学校共に授業の終末に振り返りの場を設けることを求めている。今後も、分かったことと分からなかったことを明確にし、次の授業につなげていく振り返りの場を継続して充実させていくことが望まれる。

⑫ あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている



【考察】

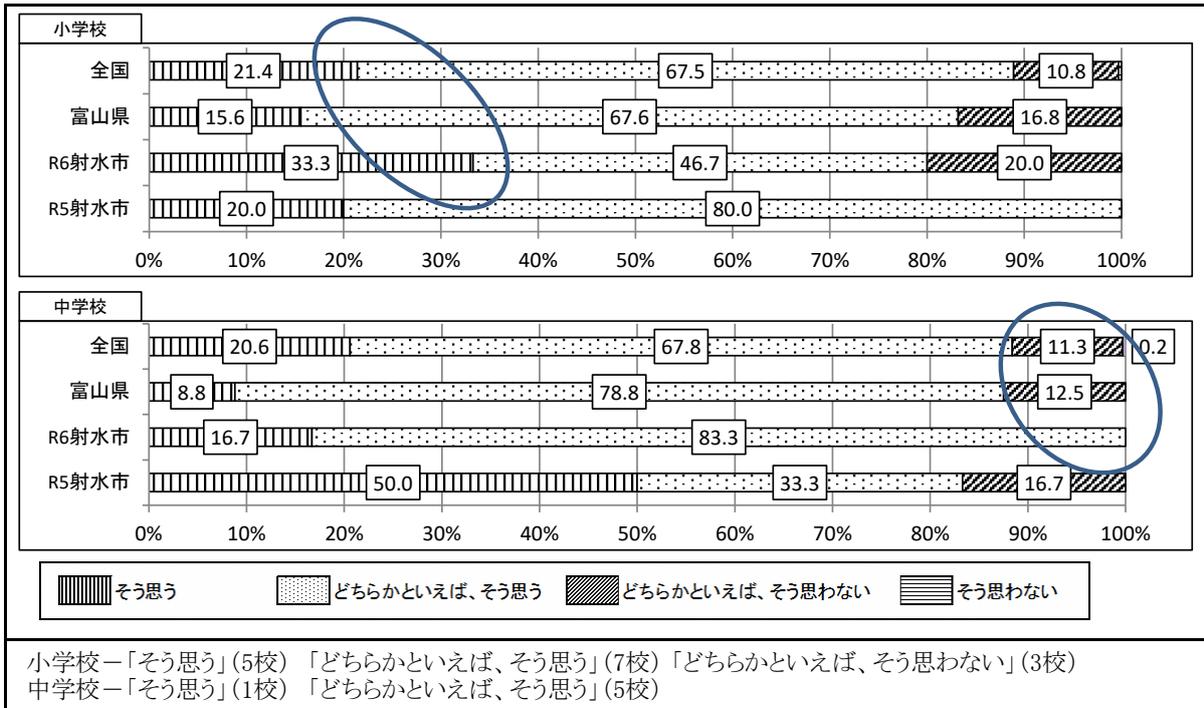
「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校では、全国平均を1.3ポイント上回っているが、県平均を1.0ポイント下回っている。中学校では、全国平均を2.3ポイント、県平均を0.1ポイント上回っている。経年の比較では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校とも年々増加している。

これは、教職員が「学び高め合う集団づくり推進事業」の研修を基盤に、教え合い、学び合う集団づくりに取り組み、WEBQU調査の結果を活用した望ましい集団づくりを実践してきた成果と考えられる。また、各教科や道徳科の授業をはじめ、学級活動や児童会・生徒会活動等の自治活動において、児童生徒が互いに意見や考えを伝え合い、解決方法を考える場を積極的に設けていることの影響ともいえる。

今後も、安心して自分の考えを述べたり、互いの考えを聞き合ったりできる温かな学級の雰囲気づくりを進めていくことが望まれる。

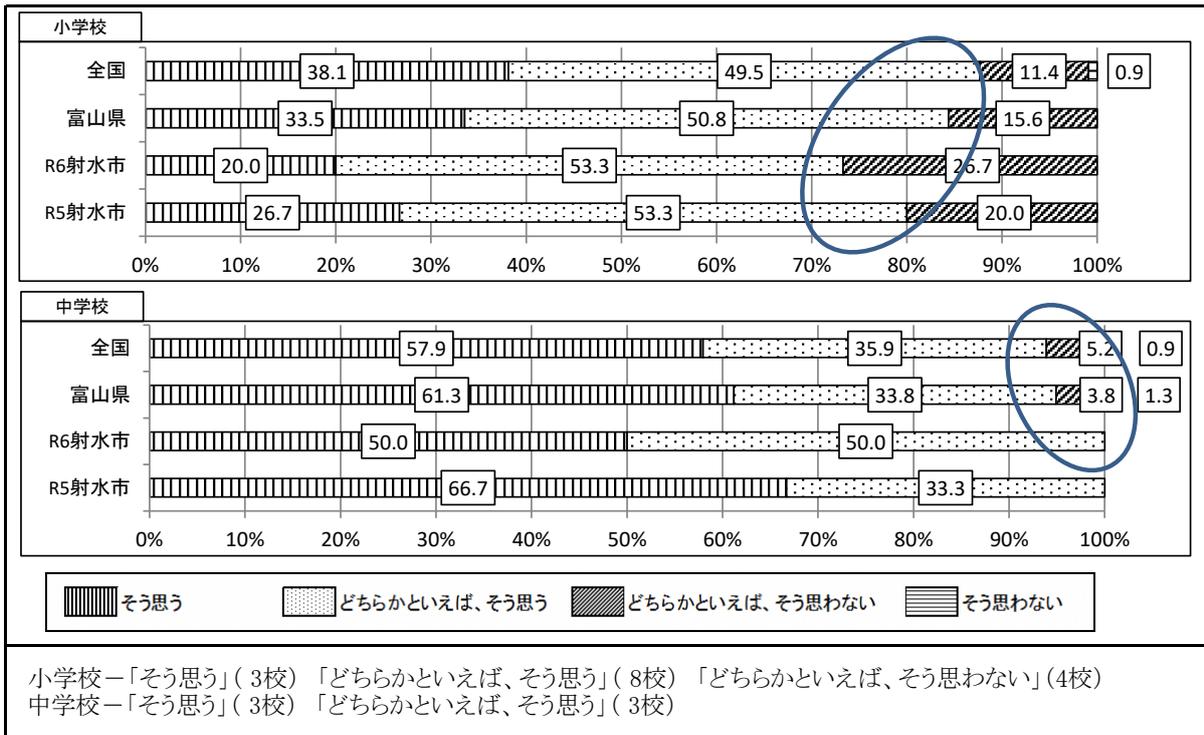
(2) 学校質問紙より

① 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。



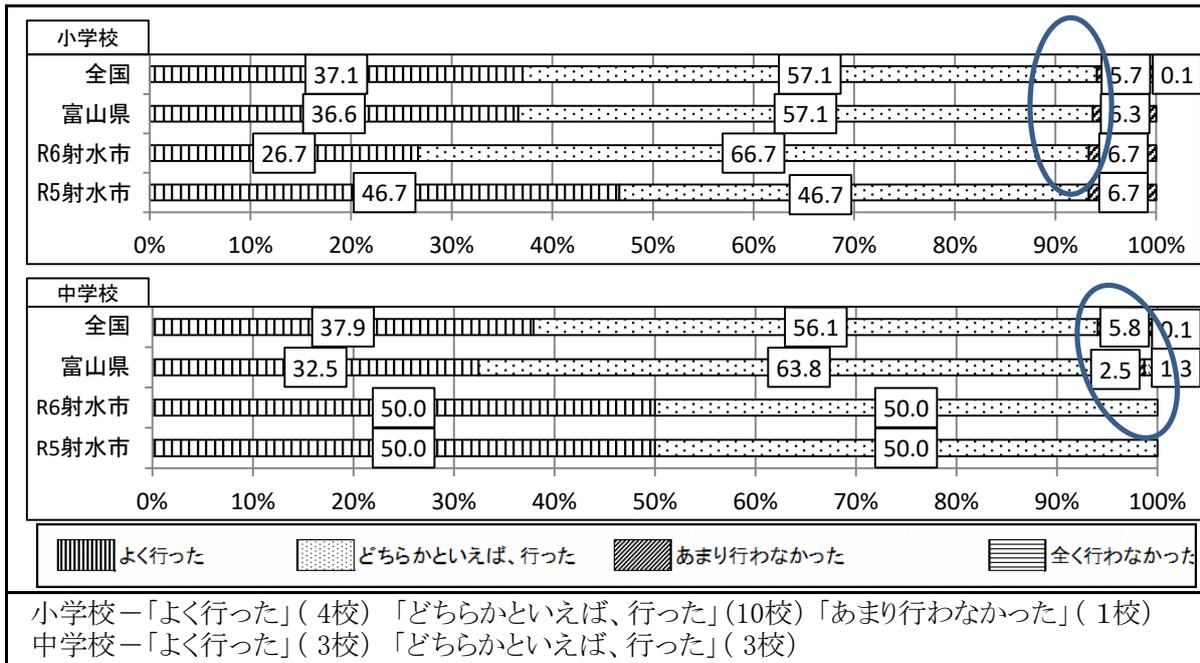
小学校では、15校のうち3分の1にあたる5校が「そう思う」と回答している。中学校では、市内全校が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答している。
 どの学校でも、射水スタンダードのもと「1時間のねらいを意識した学習課題の提示」や「分かりやすい指示」を行い、児童生徒が自ら進んで学習に取り組んでいることが伺える。

② 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。



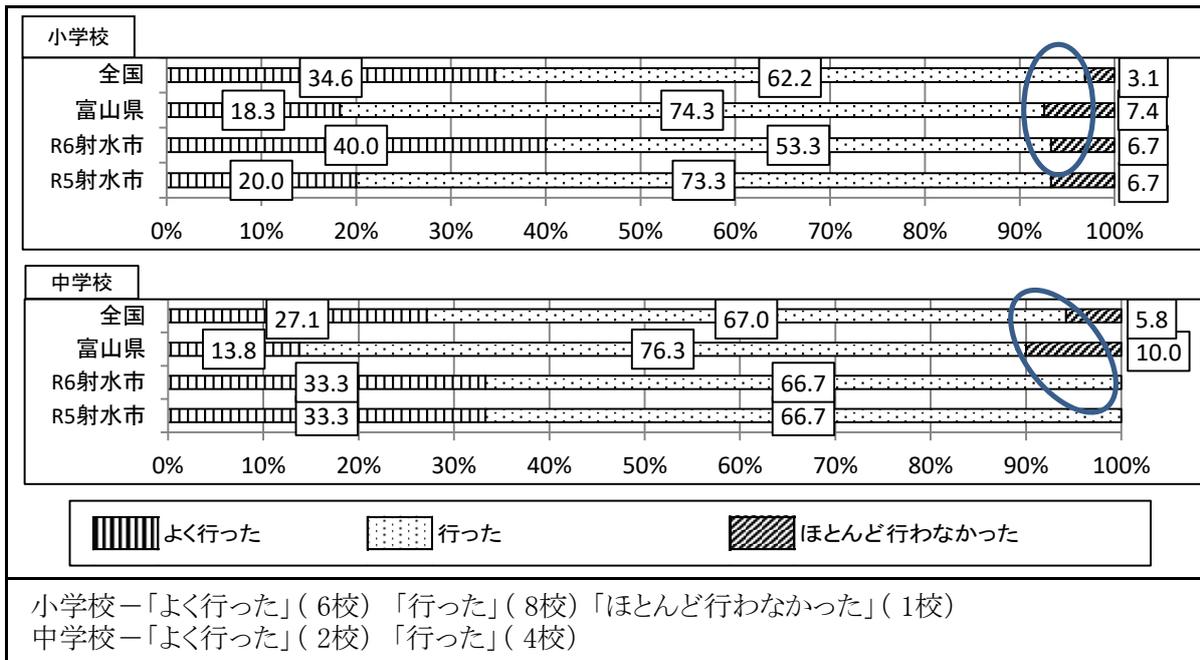
小学校では、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の否定的な回答が4校で、全国平均よりも14.4ポイント、県平均よりも11.1ポイント上回っている。中学校では、市内全校が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している。中学校では、学習規律に基づき落ち着いて授業に取り組んでいる一方、小学校では、落ち着いて授業に取り組むことができない児童がみられることが伺える。
 特別な支援が必要な児童に対する個別のサポートを手厚くしていく必要がある。

③ 学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか



小学校では14校が「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答している。中学校では市内全校で「よく行った」「どちらかといえばよく行った」と回答している。児童・生徒質問調査においても同様の結果がみられ、「学び高め合う集団づくり」推進事業の研修を基盤に、教え合い学び合う集団づくりの取組を実践していることが伺える。また、WEBQUの結果を活用した望ましい集団づくりの成果と考えることができる。今後も安心して自分の考えを述べたり、級友の意見を聞いたりできる温かな学級の雰囲気づくりを進めていくことが望まれる。

④ 令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



小学校では14校が「よく行った」「行った」と回答しており、昨年度より「よく行った」と回答した学校が20ポイント上回っている。中学校では、「よく行った」割合が全国平均、県平均を大きく上回り「ほとんど行わなかった」学校がなかった。今後も、各校の学力の課題を学習状況調査と照らし合わせながら分析し、課題解決に向けて、具体的に取組を実践し、改善していくことが望まれる。

令和 6 年 11 月の主な行事予定

日	曜	時間	場 所	行 事 予 定	主務・関連課	教育委員出席
1	金					
2	土		大島小学校	学習発表会	学校教育課	
3	日	8:30	高岡市～射水市～富山市	富山マラソン2024	生涯学習・スポーツ課	教育長
4	月					
5	火					
6	水					
7	木					
8	金					
9	土					
9	土	9:30	作道小学校	創校150周年記念式典	学校教育課	教育長
9	土	14:00	新湊農村環境改善センター	教育懇談会(射水市PTA連絡協議会)	教育センター	教育長
10	日					
11	月	13:30	小矢部市内	富山県市町村教育長会研修会	学校教育課	教育長
12	火					
13	水		高周波文化ホール	学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業	学校教育課	教育長
14	木					
15	金					
16	土	8:45	片口小学校	創校150周年記念式典	学校教育課	教育長
16	土	10:00	会議室302～304	いみず親学びスクール(第4回大人のための“アンマネ”)	生涯学習・スポーツ課	
17	日	13:00	下村体育館	モルックチャレンジカップinまいけ祭	生涯学習・スポーツ課	
18	月					
19	火					
20	水					
21	木					
22	金					
23	土	10:00	小杉体育館	ムズムズトレーニング教室	生涯学習・スポーツ課	
24	日					
25	月	15:00	会議室401	定例教育委員会	学校教育課	○
26	火	10:00	射水消防署	放課後子ども教室教育活動推進員等研修会	生涯学習・スポーツ課	
27	水					
28	木					
29	金					
30	土					

展示等

自	至	場所	展示名	自	至	場所	展示名
9/20	11/24	新湊博物館	I♡ワン・ニャン 家族になった犬と猫	11/29	2/9	新湊博物館	かわいい
11/12	11/24	新湊図書館	「古典を楽しむ」【一般書】 「昔話の本」【児童書】	11/13	11/26	中央図書館	「もっと知ろう!糖尿病!」展

令和 6 年 12 月 の 主 な 行 事 予 定

日	曜	時間	場 所	行 事 予 定	主務・関連課	教育委員出席
1	日	10:00	救急薬品市民交流プラザ	生涯学習作品展	生涯学習・スポーツ課	
1	日	14:00	救急薬品市民交流プラザ	生涯学習フェスティバル	生涯学習・スポーツ課	教育長
1	日		小杉体育館	モルックチャレンジカップinきらりクリスマスフェスタ	生涯学習・スポーツ課	
2	月					
3	火	9:00	会議室401	第3回小中学校長会	学校教育課	教育長
4	水					
5	木					
6	金					
7	土		富山市総合体育館	富山グラウジーズ市町村デー「射水市の日」	生涯学習・スポーツ課	
8	日		富山市総合体育館	富山グラウジーズ市町村デー「射水市の日」	生涯学習・スポーツ課	
9	月					
10	火					
11	水					
12	木					
13	金					
14	土	10:00	救急薬品市民交流プラザ	いみず親学びスクール(第5回運動神経が良くなる！？親子でコーディネーショントレーニング)	生涯学習・スポーツ課	
15	日					
16	月					
17	火					
18	水					
19	木					
20	金					
21	土					
22	日					
23	月					
24	火		各小中学校	2学期終業式	学校教育課	
25	水					
26	木					
27	金					
28	土					
29	日					
30	月					
31	火					

展示等

自	至	場所	展示名	自	至	場所	展示名
11/29	2/9	新湊博物館	かわいい				